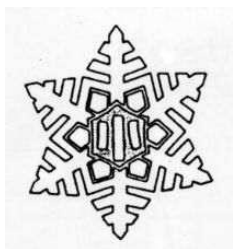


第1章 富士見台小学校の概要

1 校名、校章、教育目標

豊島区立富士見台小学校は、1950年に開校しました。今年度創立65周年という長い歴史をもっています。

校名の「富士見台」は、富士山がきれいに見えるこの地で富士の頂の雪のように清らかに、更に一つ一つ異なる雪の結晶のように個性を生かして輝く力をはぐくむことを表しています。



校 章

美しく清らかに光り輝く、
雪の結晶を校章にしています。

教育目標

元気いっぱい
さわやか笑顔
かがやくひとみで
未知にチャレンジ



富士見台小学校は、6年間で生活、交通、災害にかかわるバランスのよい安全教育を推進する学校を実施しています。将来、地域に貢献できる児童の育成を目指しています。

2 教職員と在籍児童

表：1-1 教職員数

職名	人数	内 訳
校長	1	
副校長	1	
主幹教諭	1	教務主任1名、
主任教諭	6	生活指導主任1名 学年主任、特活主任 研究主任、
教諭	8	保健主任
講師	5	非常勤教員、区職員
栄養士	1	
事務	1	
用務、調理員		民間委託

表：1-2 在籍児童数（2015年7月現在）

	男	女	合 計	学級数
1年生	19	25	44	2
2年生	31	18	49	2
3年生	19	25	44	2
4年生	23	24	47	2
5年生	19	19	38	1
6年生	28	16	44	2
合計	139	126	265	11

交通量が多く、高速で走る車

A photograph of a busy Japanese highway. A large white truck is driving on the road, followed by a black car. In the foreground, a bicycle is parked on the sidewalk. The background shows a city skyline with various buildings and a construction crane. The text '交通量が多く、高速で走る車' (High traffic volume, cars driving at high speed) is overlaid on the image.

狭い道路、ガードレール無し

A photograph of a narrow residential street in Japan. A white van with blue and yellow stripes is driving away from the camera. The street is flanked by buildings on the left and a steep hillside with a fence on the right. There are no guardrails. The text "狭い道路、ガードレール無し" (Narrow road, no guardrail) is overlaid at the top.

正門前→見通しの悪い交差点

A photograph of a silver and blue train stopped at a crossing with a closed barrier. The train is positioned on tracks that cross a road. A yellow and black striped barrier is lowered across the road. To the right of the train, there is a signal post with a red light illuminated. In the background, there are residential buildings and utility poles. The sky is clear and blue.

登校時、40本／hの通過電車

登校時、40本／hの通過電車

太平洋戦争の際に、戦火を免れた学校西側の地区と、戦火により焼失した学校東側の地区、二つの異なる影響がその後の開発に現れています。戦火を免れた地域では、昔からの住宅地や細い路地が多く残り、焼失した地区では道路が再開発されたため交通量が増加しています。また、近年は高層住宅が多く建設され、さらなる高密度化とともに、新住民の流入が進んでいます。

A map of Tokyo (東京都) with its constituent wards (区) outlined. Toyosu Ward (豊島区) is highlighted in blue. A large, curved arrow points from the text '豊島区' (Toyosu Ward) to the highlighted area. The text '東京都' (Tokyo) is also present in a box on the map.



第2章 インターナショナルセーフスクールへの取組

1 取組の背景

1950年(昭和25年)に、この地域の2校(長崎小・椎名町小)より児童が分けられ、富士見台小学校が開校しました。

本校の通学路は交通面で危険の可能性が高い環境となっています。学区域には、山手通り・目白通りという極めて交通量の多い幹線道路が2本あり、交通量の極めて多い通りを通り登校する児童も多くいます。また、学区域の殆どは住宅街で、道幅4m未満の狭い路地が縦横に走り、交差点は見通しが悪く、ガードレールも殆どありません。校内のけがも多く、年間500件を超えています。

さらに、内閣府や東京都の発表から、地震に関する危険度が極めて高いことも分かっています。

このような状況を踏まえ、インターナショナルセーフスクール認証の取組を契機として、児童の危険予測回避能力の育成や地域・保護者と連携した子どもの見守り体制を充実させたいと考えています。

2 これまでの取り組み状況(セーフロード)

	全体の取組	児童主体の取組
2014年	<p>4月 インターナショナルセーフスクール 取組宣言</p> <p>5月 救急救命法研修会(教職員)</p> <p>7月 広報誌 「セーフスクール新聞」第1号発行</p> <p>7月 セーフティスクール (不審者対応避難訓練)</p> <p>7月 安全朝会(自転車の乗り方)</p> <p>7月 学校保健委員会(教職員、地域)</p> <p>8月 ISS認証校への見学(朋有小)</p> <p>9月 セーフスクールマスコット決定</p>	<p>3月 朋有小学校(ISS認証取得校) との交流</p> <p>4月 委員会組織・活動開始</p> <p>4月 第1回 ISS 交流会 児童取組宣言 セーフニュース第1号発行</p> <p>5月 あわてず歩こう調査隊スタート (ISS委員会)</p> <p>5月 ゴミ分別ポスター掲示スタート (エコ委員会)</p> <p>6月 児童代表者会議スタート</p> <p>6月 第2回 ISS 交流会 ISS取組発表(各委員長)</p> <p>6月 熱中症予防呼び掛け (運動委員会)</p> <p>7月 スローガン発表(ISS委員会)</p> <p>7月 ウサギとのふれあい会スタート (飼育栽培委員会)</p> <p>7月 児童代表者昼食会</p> <p>9月 防災グッツビンゴ集会 (集会委員会)</p>

	<p>9月 防災デー</p> <p>9月 セーフスクールマスコット発表</p> <p>10月 自転車安全教室</p> <p>12月 ISS 認証校見学（厚木市清水小）</p> <p>12月 豊島区 SC 推進協議会報告</p>	<p>9月 町探検発表（区民ひろば）</p> <p>10月 安全安心パレード</p> <p>10月 スローガン報告（区民ひろば）</p> <p>10月 防災マップ発表（区民ひろば）</p> <p>10月 しゃべり場 in 富士見台 （5年、地域）</p> <p>11月 ISS 交流会</p> <p>11月 地域安全マップ発表（区民ひろば）</p>
2015年	<p>2月 研究報告会</p> <p>5月 三世代交通安全教室</p> <p>6月 事前審査会：アジア認証センター</p> <p>6月 広報誌「セーフスクール新聞」 第14号発刊</p> <p>7月 学校保健委員会（教職員、地域）</p> <p>11月 現地審査：アジア認証センター</p>	<p>2月 安全まちがい探し集会 （集会委員会）</p> <p>2月 お花いっぱい（飼育栽培委員会）</p> <p>2月 ISS 引き継ぎ式（6年生を送る会）</p> <p>3月 安全集会（5年）</p> <p>4月 委員会組織・活動開始</p> <p>5月 各委員会による取組宣言</p> <p>5月 ISS ソング合唱団結成</p> <p>6月 朋有小との児童交流会</p> <p>7月 ISS ソング発表 （全校・区民ひろば・HP掲載）</p> <p>9月 朋有小との児童交流会</p> <p>10月 安全・安心パレード</p>

セーフロード（これまでの取組状況）

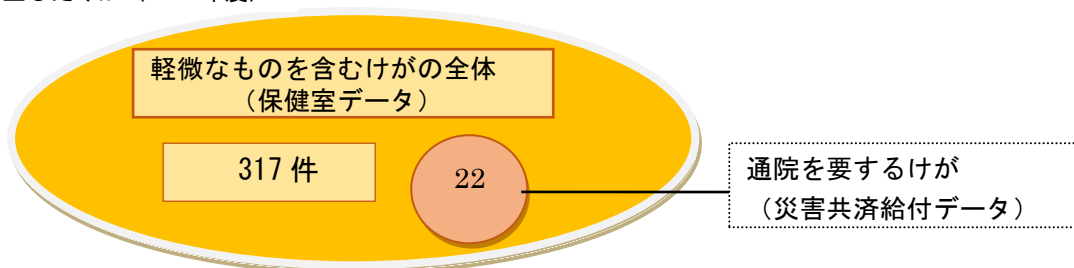


第3章 けが・リスクの状況

1 校内のけが

校内で発生したけがは保健室データとして収集します。その中で、通院する必要がある重い症状のけがについては、災害共済給付データとして収集します。

図 3-1 校内で発生したけが（2014 年度）



※災害共済給付とは、児童・生徒が学校の管理下で「けが」などをした時に、保護者に対して給付金を（災害共済給付）を支払う制度です。全ての区立小中学校で「けがの状況、種類や原因について記録し、毎学期 1 回分析をしています。

図 3-2 軽微なものを含むけが（「保健室データ」より）

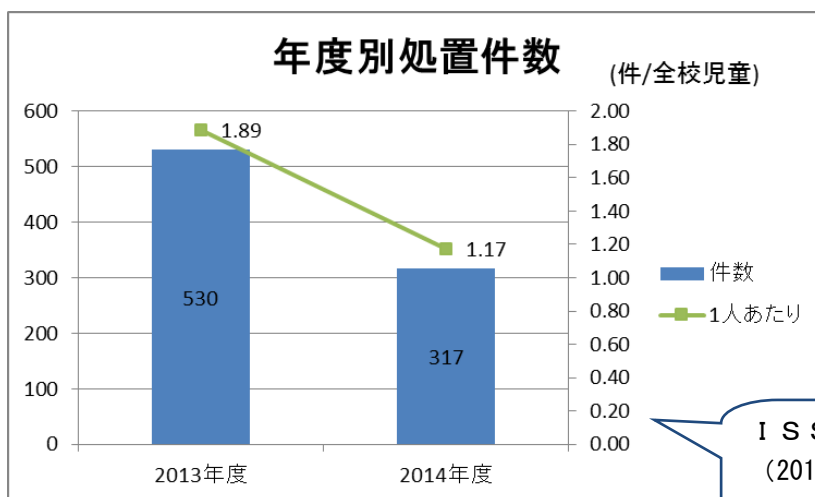
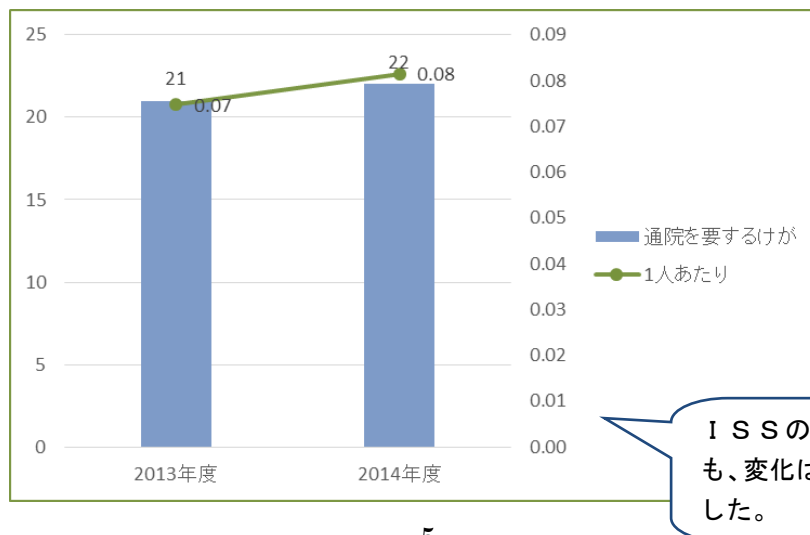


図 3-3 通院を要するけが（「災害共済給付データ」より）



(1) 軽微なものを含むけがの発生状況（「保健室データ」より）

図 3-4 年間の処置件数の推移（2013 年度・2014 年度・2015 年度）

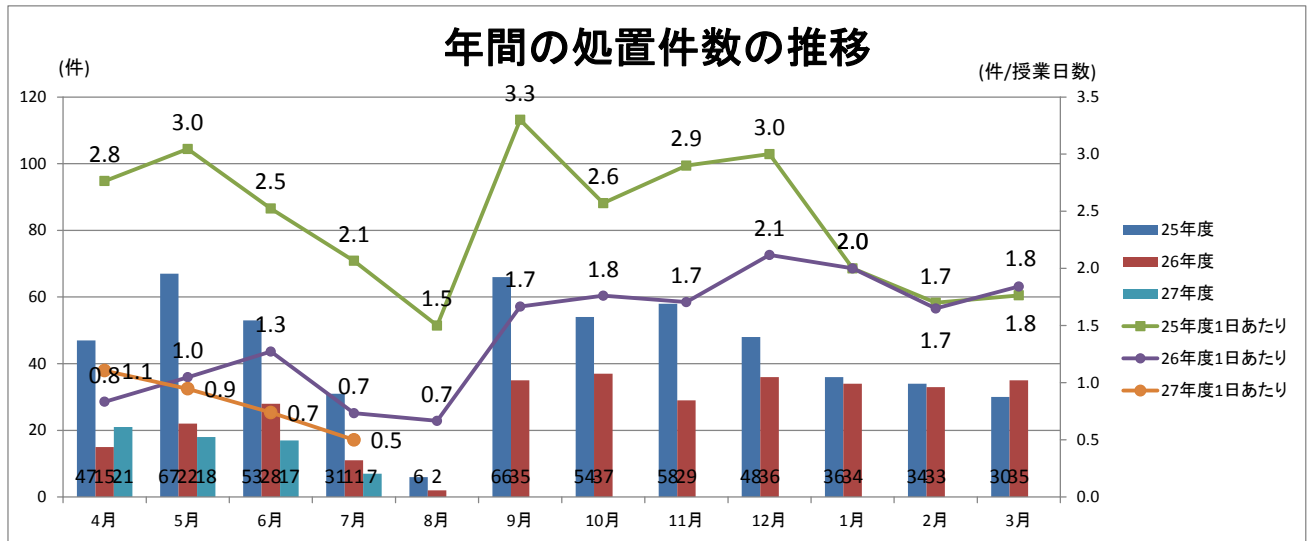


図 3-5 学年男女別のけが（2013・2014 年度）

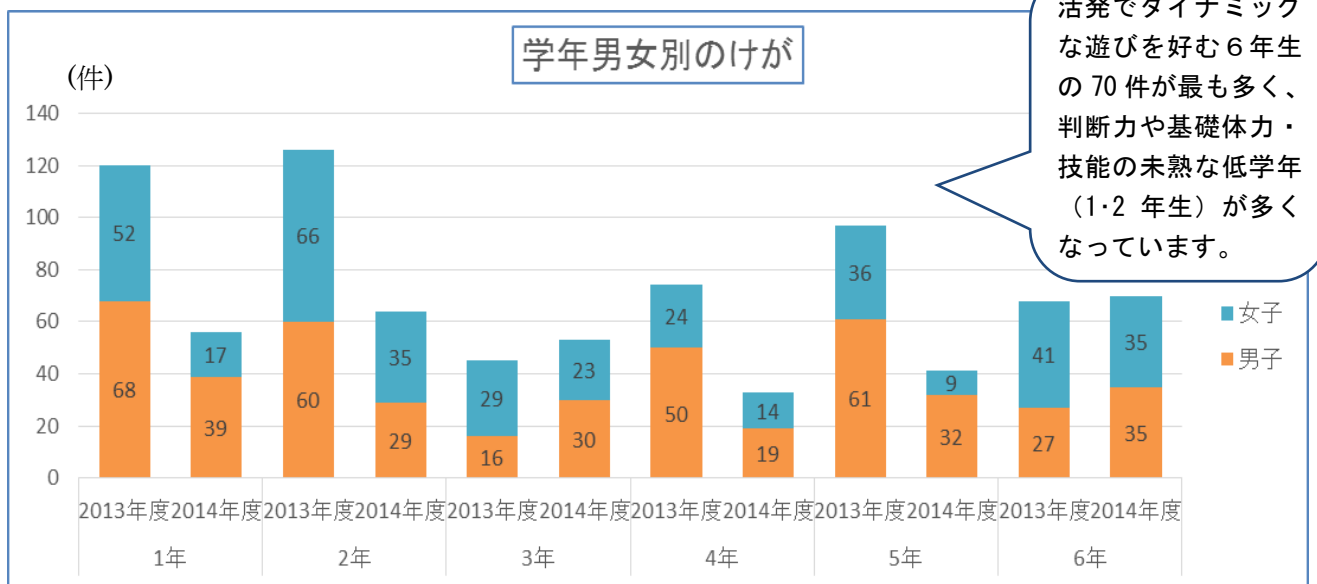


図 3-6 時間帯別のけが（2013・2014 年度）

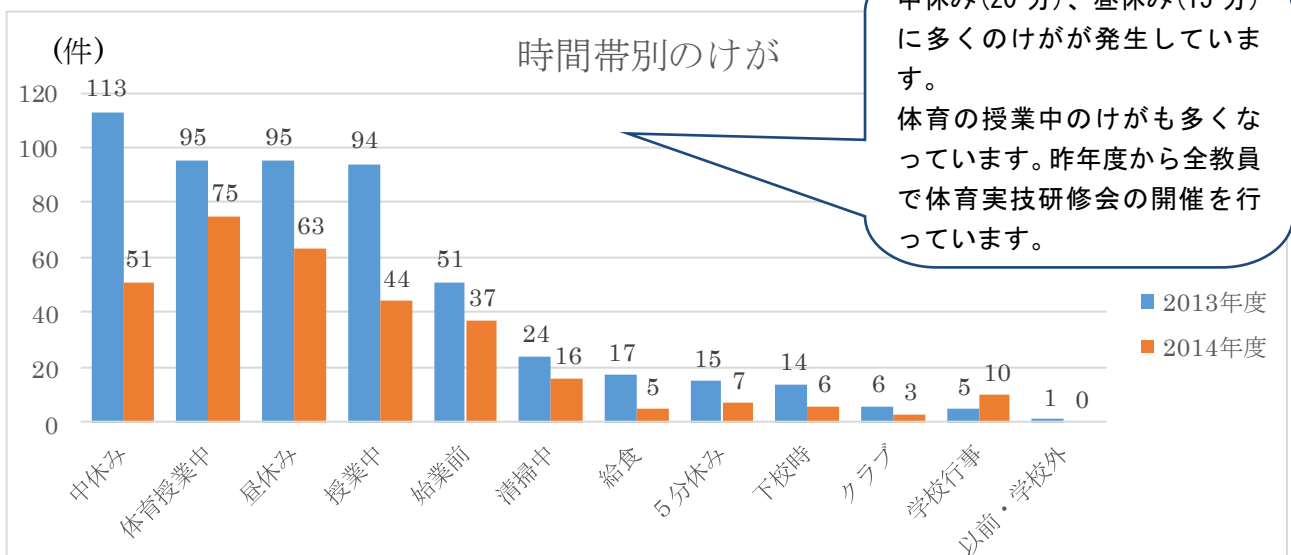


図 3-7 場所別のけが(2013・2014 年度)

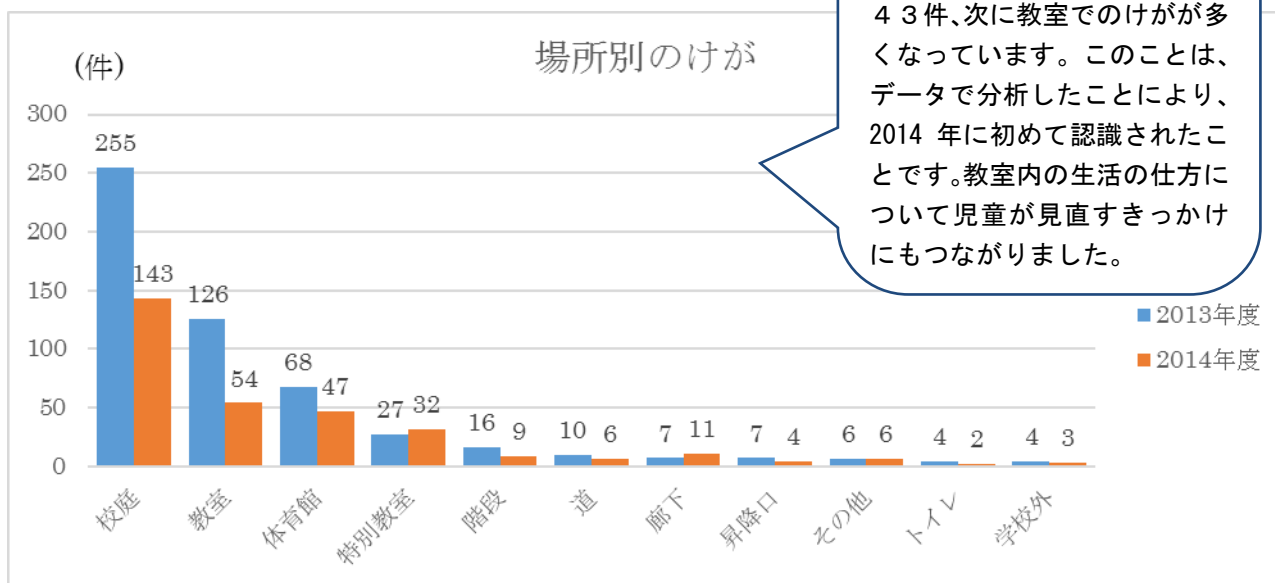
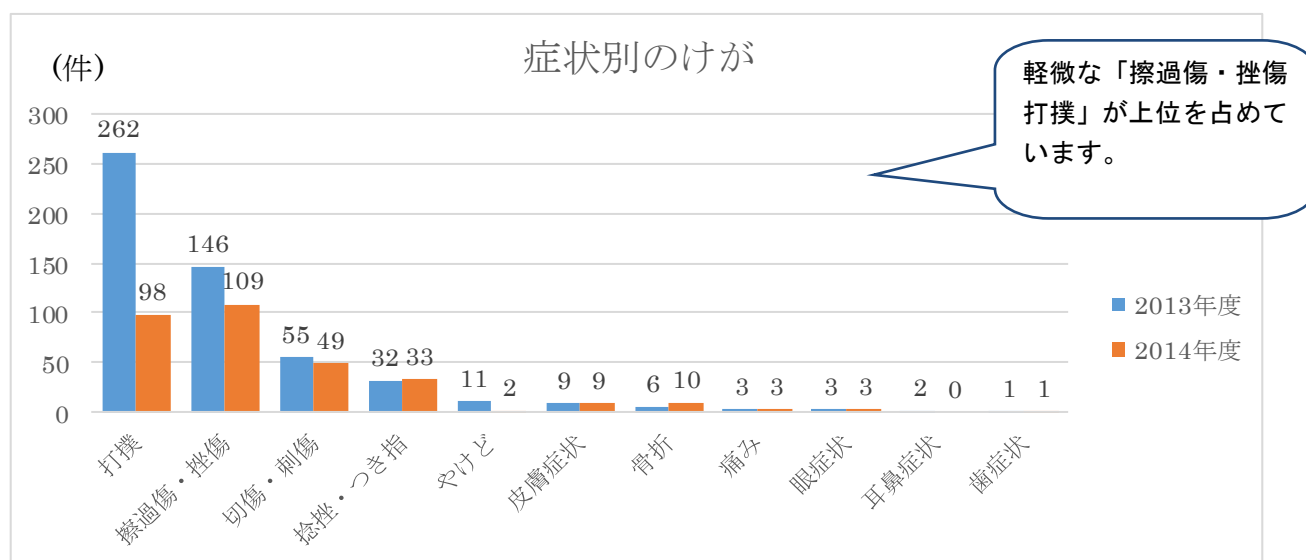


図 3-8 症状別のけが(2013・2014 年度)



※「痛み」とは外傷はみられないが、本人が訴えているケースです。

図 3-9 けがが発生している時間と場所(2014 年度)

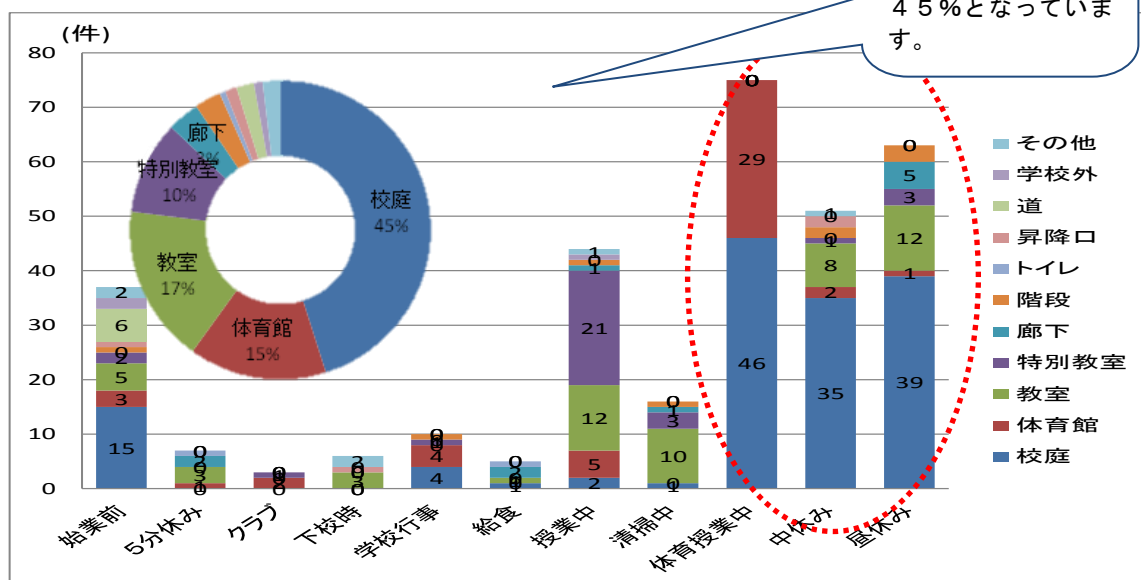
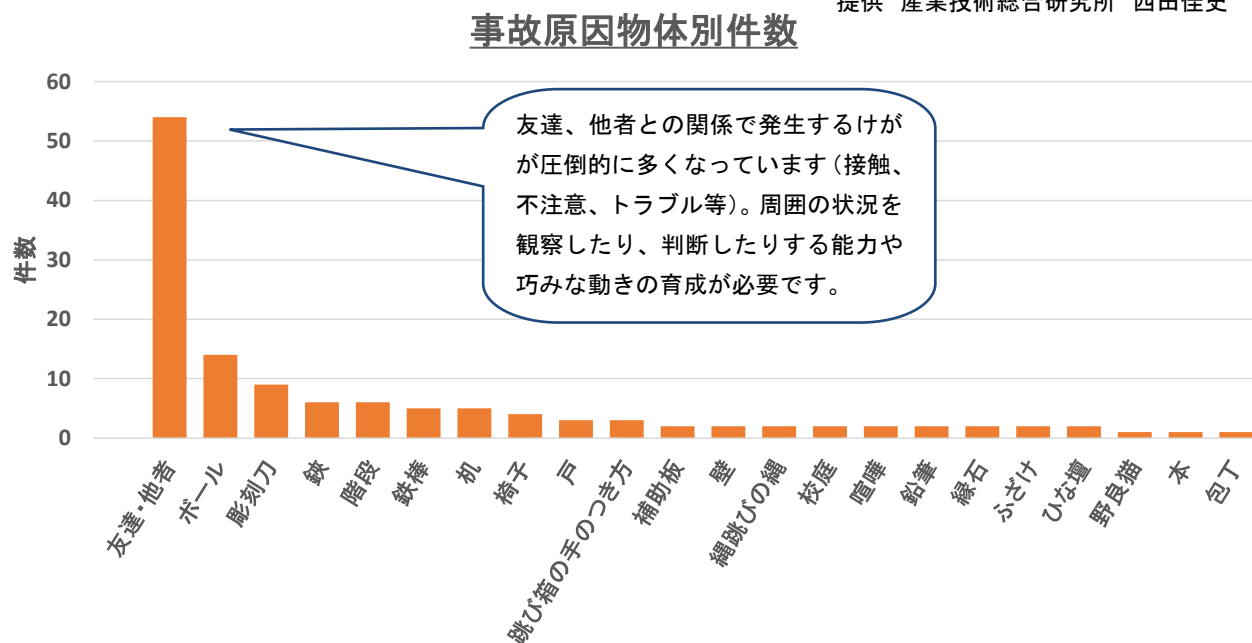


図 3-10 事故原因物体別件数（2014 年度）

提供 産業技術総合研究所 西田佳史



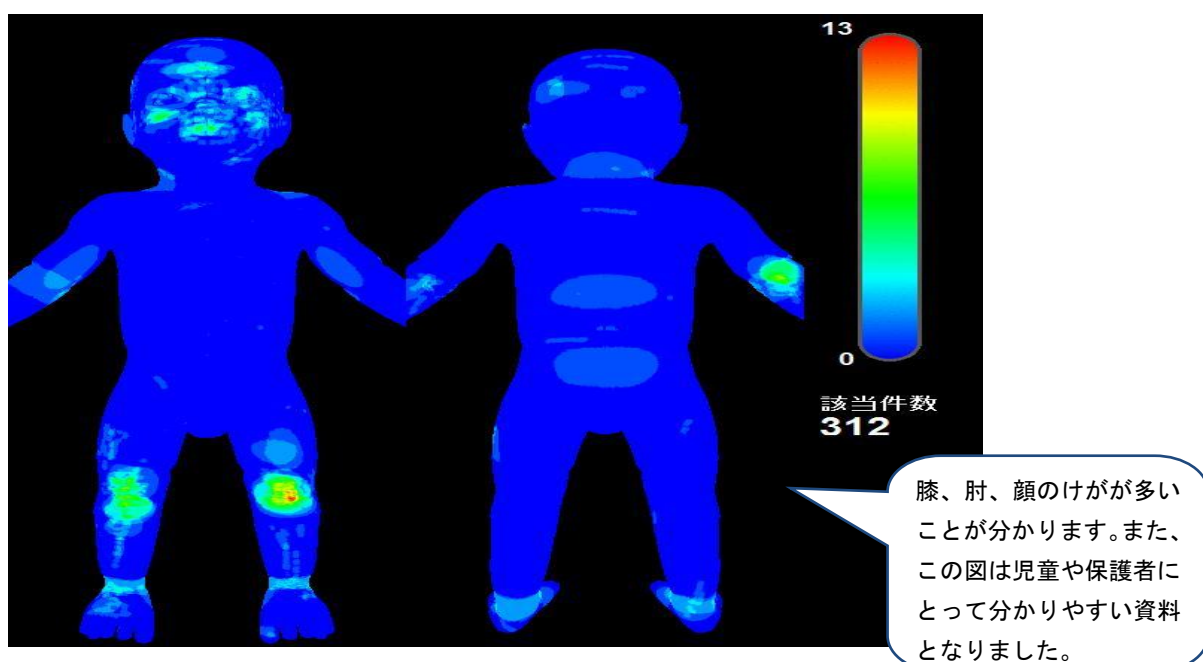
上記以外の件数 1 件の原因物体

事故原因物体

歩道橋の柵	1	体調不良	1	上履きが滑った	1	古くなった跳び箱	1	フリスビー	1
歩き方	1	側溝	1	床	1	鍵盤ハーモニカ	1	フック	1
不自然な立ち方？	1	前下がりのたたき	1	手のつき方	1	教室で追いかけて	1	ファイル	1
飛び出し	1	針金	1	自分の眼鏡	1	境目の金属？	1	ピンセット	1
板	1	針	1	紙	1	滑りやすい校庭（古）	1	ノート	1
熱された地面？	1	振り向いたこと	1	雑巾掛け	1	画びょう	1	ソフトバレーボール	1
縄に引っかかった。	1	尻餅	1	黒板	1	マイクのジョイント	1	ステプラーの針	1
竹の棒	1	植木鉢の台	1	校庭の木片	1	ブロック	1	ガラス片	1
大道具木	1	植木	1	固定のボールが変形	1	プリント	1	オルガン	1

図 3-11 部位別 発生 状況（2014 年度）

提供 産業技術総合研究所 西田佳史 氏



(2) 通院を要するけがの発生状況（「災害共済給付データ」より）

※けがの発生率＝通院を要するけがの数÷全児童数

図 3-12 過去 2 年間の通院を要するけがの時間帯別発生率比較

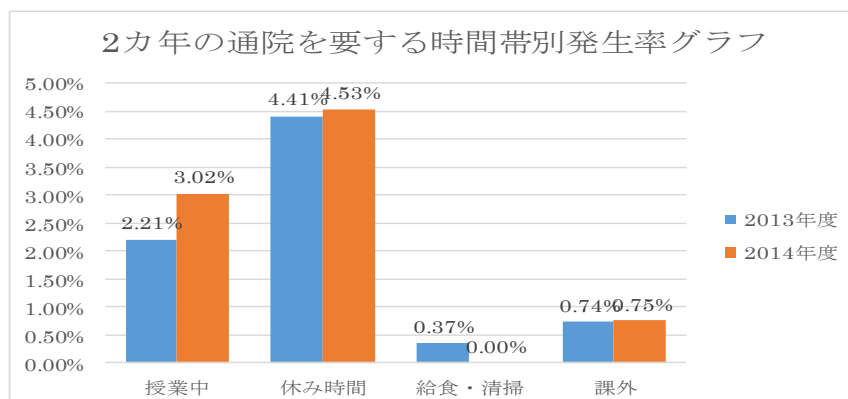


図 3-14 過去 2 年間の通院を要するけがの学年別発生率

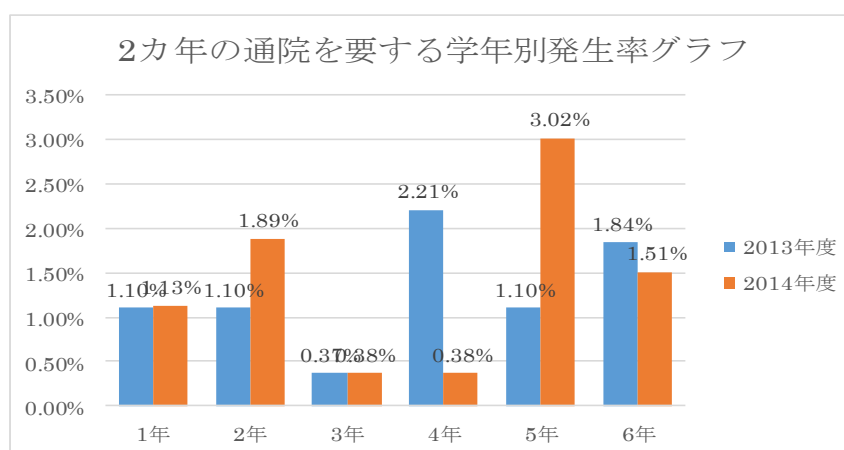
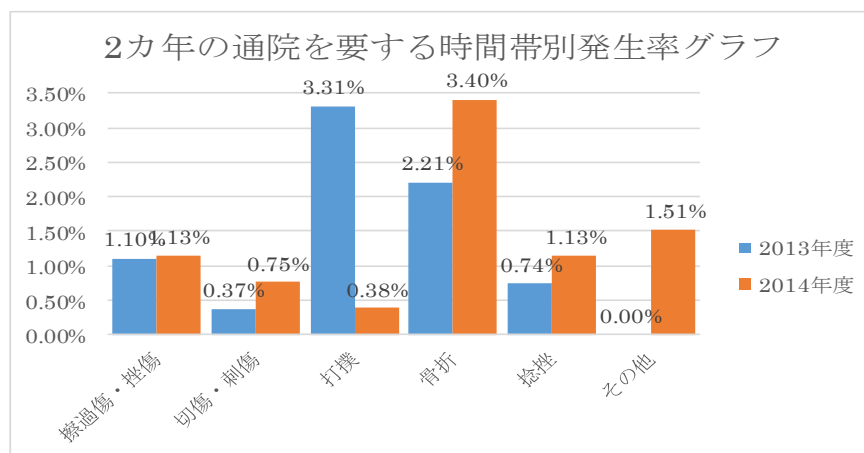


図 3-13 過去 2 年間の通院を要するけがの項目別発生率比較



発生時間帯別にみると、休み時間中におけるけがの割合が特に高くなっています。年度によって、また学級の構成等によって学年の特徴があることが分かります。2014年度の5年生は、2013年度にも高い割合となっています。項目別では骨折の頻度がやや高くなっています。

(3) いじめによる心のけが

いじめは、どの学校、学級にもあり得る。どの子に対しても起こる可能性がある。

いじめは、自分より弱いものに対して、集団や個人が一方的に身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものである。また、心の中に深い傷となって長く残るものであり、絶対的に許されない人権侵害です。

本校では、いじめは、外傷ではなく、「心のけが」として考え、予防的対応を重要視しています。

全校児童を対象に、毎学期「生活をふりかえってみよう」アンケートを用いて実施しています。児童のよりよい友達とのかかわりや生活を求めて東京都が実施している「ふれあい月間」に合わせて年間3回、6月・11月・2月に調査しています。

<「生活をふりかえってみよう」アンケート調査項目より：P.55 参照>

友達のことで困っていることはありますか？	記述による回答
自分のことで困っていることはありますか？	記述による回答
学校は楽しいと思う。	選択による回答 ◎ ○ △ ×
早寝・早起きをしている。	選択による回答 ◎ ○ △ ×

表 3-1 いじめの発生状況（「生活をふりかえってみよう」アンケートより）

	2013 年度	2014 年度	2015 年度 7 月現在
いじめ件数	1	2	0
解消件数	1	2	0
継続指導中	0	0	0

※2013 年度・2014 年度については、数か月指導して解消しました。

さらに、いじめが深刻化しやすい 5・6 年生に対して豊島区で実施しているハイパー Q U を使用し、潜在的な部分に着目しいじめの早期発見に努めています。（参照 p. 56・p57）

加えて、スクールカウンセラーによる 5・6 年児童全員の面接を行って、児童理解に努めています。
（参照 p. 55）

校内ではいじめ防止基本方針を策定し、いじめ対策委員会を定期的を開催し、情報の収集と対応を行っています。

2 校外のけが

(1) 学区域内の児童の自転車事故の発生件数

過去3年間に発生した学区域内における富士見台小学校児童の交通事故は 5件で、交差点での事故がほとんどで、過去2年間の飛び出しすべて自転車乗車中の事故でした。

表 3-2 最近3年間の発生状況（「豊島区教育委員会報告データ」より）

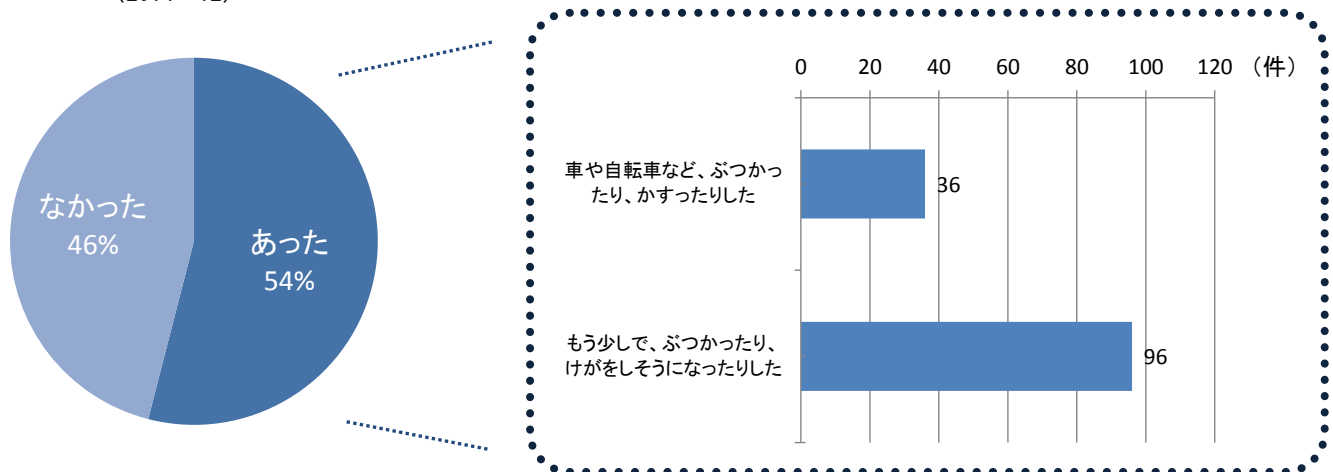
	2013 年度	2014 年度	2015 年度
件数	2	2	1
状況	・ 自転車乗車中の 飛び出し ・ 歩行中の 飛び出し	・ 自転車乗車中の 飛び出し 2 件	・ 自転車乗車中の 飛び出し

(2) ヒヤリ・ハット体験（「あっあぶない！発見」より）

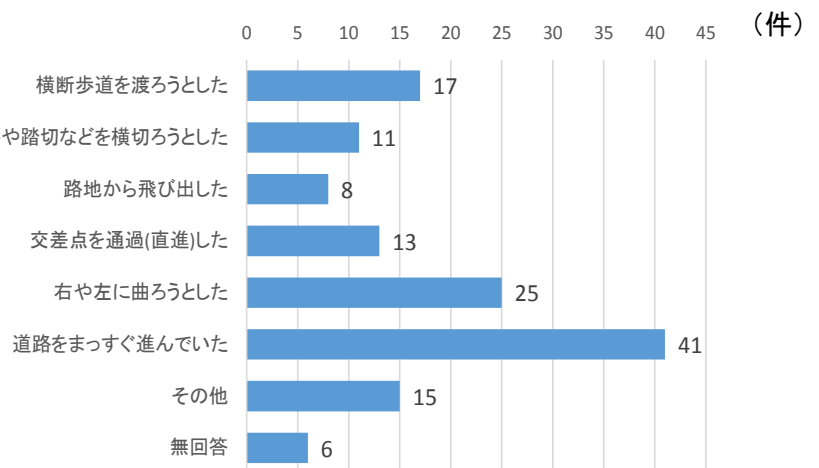
2014 年 12 月に全校生を対象として、最近 1 年間に子どもたちが体験した交通事故やヒヤリ・ハット体験についてアンケート調査を行いました。〔配付数 253 枚 回答者数 253 人（回答率 100 %）〕

交通事故ヒヤリ・ハット経験のある児童 136 人のうち 58 人（43%）は自転車乗車中と回答しています。

図：3-15 一年以内に「危ない」と思った出来事があった割合（n=253） あると回答した人数の内訳（n=132, 複数回答）
（2014・12）



図：3-18 ヒヤリ体験マップ（n=220 保護者）

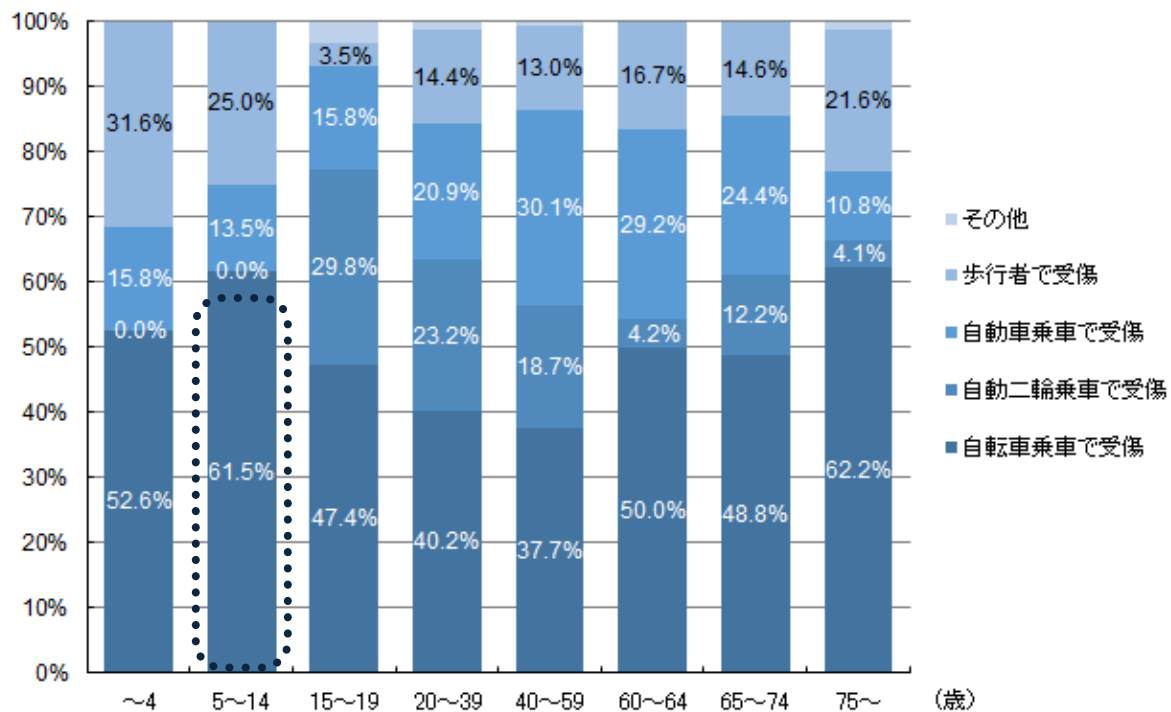


2013年の1年間、学区域において保護者が危ないと感じた場所についてのアンケート調査を行いました。1～4件を水色、5～9件を赤色、10件以上を黄色で示しています。

(3) 交通事故による救急搬送（豊島区）

2014年度の豊島区交通事故状況を年代別にみると、5～14歳では自転車乗車中の事故の割合が61.5%と高くなっています。

図：3-19 年代別交通事故の発生状況（救急搬送データ）（2014年度）



※ 5～14歳の交通事故発生状況：n=52

3 災害リスクの状況

(1) 地震に関する地域危険度測定調査（第7回）（2013年9月公表）より抜粋（東京都都市整備局）

町丁目名	地盤分類	建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度		災害時活動困難度を考慮した危険度					
								建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度	
		ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位
南長崎1丁目	台地1	2	1503	2	1434	2	1451	2	1279	2	1283	2	1217
南長崎2丁目	台地1	3	921	3	395	3	549	4	347	4	278	4	277
南長崎3丁目	台地1	3	848	4	315	3	481	3	515	4	300	4	359
南長崎4丁目	台地1	2	1761	3	839	2	1249	2	1300	3	753	3	975
目白1丁目	台地1	1	4856	1	4860	1	4868	1	4761	1	4843	1	4825
目白5丁目	谷底低地3	3	929	3	523	3	615	3	470	3	429	3	409

◆ 東京都都市整備局 BUREAU OF URBAN DEVELOPMENT TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

最終更新日：平成 25（2013）年 11 月 14 日

地域危険度測定調査は、東京都震災対策条例（当時は震災予防条例）に基づき、概ね5年ごとに
行っており、7回目となる今回は、都内の市街化区域の5,133町丁目について、各地域における地震
に関する危険性を、建物の倒壊及び火災について測定しました。

本調査では、地震の揺れによる以下の危険性を町丁目ごとに測定しています。

- 建物倒壊危険度 （建物倒壊の危険性）
- 火災危険度 （火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度 （建物倒壊や延焼の危険性）
- 「災害時活動困難度」を考慮した危険度【新規】
（災害時の避難や消火・救助等の活動のしやすさ(困難さ)を考慮した危険性）

なお、地域危険度はそれぞれの危険度について、町丁目ごとの危険性の度合いを5つのランクに分けて、以下のように相対的に評価しています。



第4章 けが・リスクの発生状況に基づく予防対象

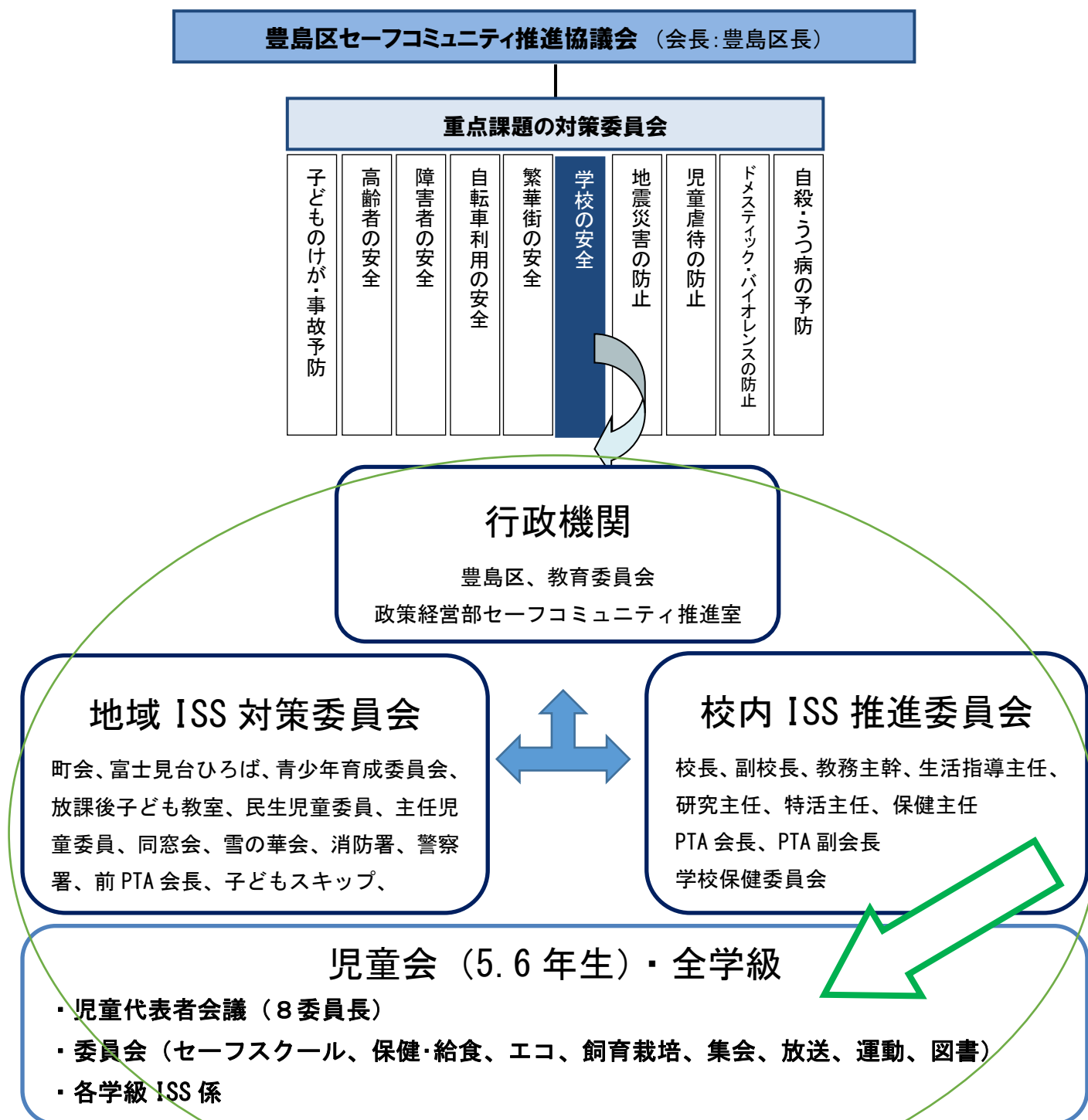
けがの発生状況を踏まえて、校内及び校外におけるけがの予防対象を設定し、予防活動を行います。

けが・リスクの発生状況		予防対象
校 内	<p>○軽微なけがを含むけが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の校庭でのけが 2013 年度… 150 件 全体の 33.2% 2014 年度… 74 件 全体の 28.0% ・休み時間の教室でのけが 2013 年度… 45 件 全体の 9.4% 2014 年度… 23 件 全体の 8.8% <p>○過去 2 年間で報告されたいじめの件数 2013 年度…2 件 2014 年度…2 件</p> <p>○ハイパーＱＵによる分析結果（５・６年） 予防的対応・即時対応が必要な児童…50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間の校庭のけが ・休み時間の教室のけが ・いじめによる心のけが
校 外	<p>○過去 2 年間に発生した学区域内における富士見台小学校児童の交通事故 4 件…すべて自転車乗車中の事故</p> <p>○交通事故に関するヒヤリ・ハット経験のある児童 136 人のうち 58 人(44%)は自転車乗車中</p>	自転車乗車中の交通事故

指標1 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

1 インターナショナルセーフスクール推進組織

「豊島区セーフコミュニティ推進協議会」の「学校安全対策委員会」と「地域 ISS 対策委員会」・「校内 ISS 推進委員会」が一体となって、セーフスクール活動を支えています。
また、「区民ひろば富士見台」との連携も行われています。



2 校内 ISS 推進委員会

校長の下、三部会（特別活動部会、生活指導部会、研究推進部会）と PTA が連携する委員会を組織し、取組の課題を共有するとともに、推進の企画・調整を行います。

(1) 特別活動部

外傷データをもとに児童の安全・安心の意識を高め、児童の主体的な活動の支援を行います。

各委員会では、目的意識をもって活動するための問題提起をします。各学級では、安全・安心のための話し合い活動や、実際の取組を行っています。

今後、国内外の ISS 認証校との交流発展にもつなげていきます。

(2) 生活指導部

収集した保健室のデータの分析・考察を行い、情報を発信します。ここから、特別活動部・研究推進部に、児童会活動や校内研究の問題を投げかけます。

全職員に対しては、生活指導夕会（木曜日）を開催し、推進課題の共通理解を図ります。

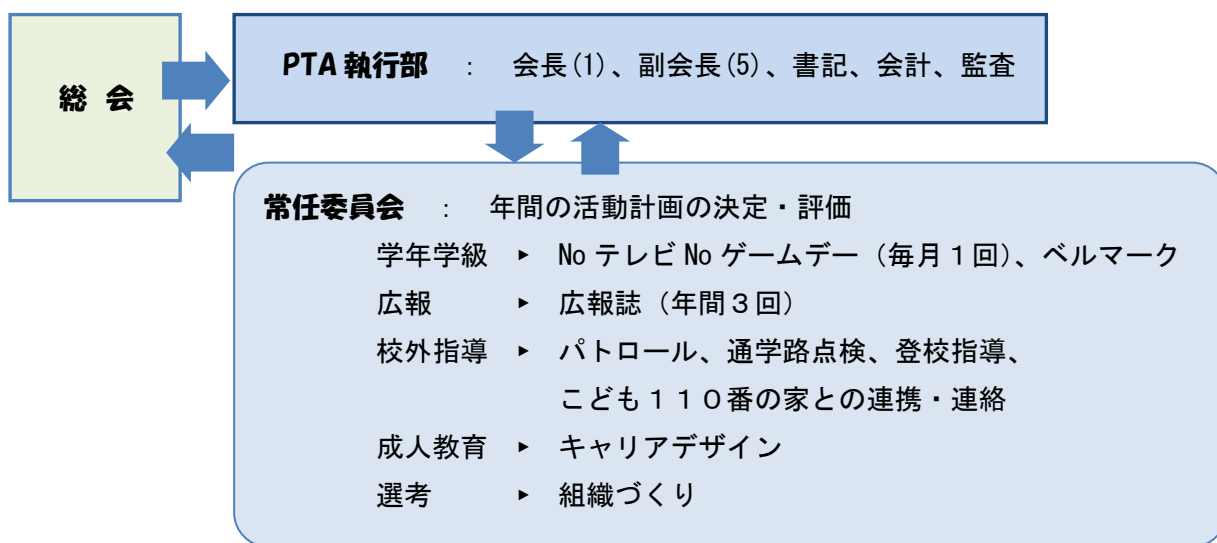
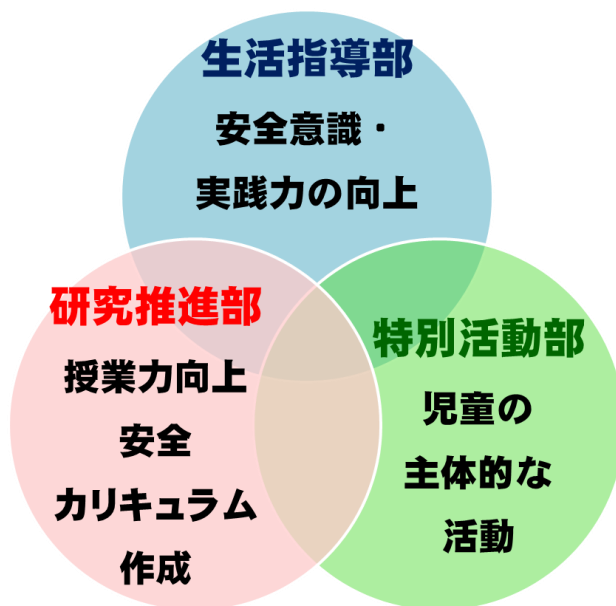
(3) 研究推進部

研究テーマを「児童の危険を予測し回避する主体的な能力の育成」と設定し、児童の身近な生活安全や交通安全、災害安全について体験的な活動を取り入れながら、課題解決する力の育成を目指した授業研究をしています。

こうした研究を通し、安全学習カリキュラムを作成します。

(4) P T A

P T A 総会で選ばれた保護者が役員となり、全保護者に呼びかけ、セーフスクールの活動を推進しています。



3 地域 ISS 対策委員会

区民ひろば富士見台理事長を委員長とし、目白協和会・南長崎一丁目みどり会、南長崎二丁目町会、青少年育成委員、放課後子ども教室、民生・児童委員、主任児童委員、同窓会、雪の華会、長崎消防出張所、池袋消防署、目白警察署、前PTA会長、PTA役員、子どもスキップで構成しています。

定期的に委員会を開催するとともに、広報誌「挑戦セーフスクール富士見台小」の発行や、セーフコミュニティ活動（区民ひろば富士見台）とセーフスクール活動（富士見台小学校）の連携を推進しています。

	開催日	内 容
2014年	6月23日	取組の方針について
	7月14日	1学期活動状況の報告
	7月24日	2学期以降の活動について①
	9月 8日	2学期以降の活動について②
	9月25日	2学期以降の活動について③
	1月16日	2学期活動評価
	3月16日	1年間の取組をふり返って
2015年	6月25日	プレ審査に向けて
	月 日	申請書について
	月 日	現地審査に向けて

(1) 三町会

目白協和会・南長崎一丁目みどり会、南長崎二丁目町会が、富士見台小学校の活動をサポートしています。

〈地域合同防災訓練〉

	開催月	内 容
2014年	5月	消防訓練
	6月	地域合同防災訓練
	7・8月	ラジオ体操・盆踊り
	9月	6年防災学習 (町会の防災倉庫見学)
	10月	しゃべり場への参加
	12月	夜警
2015年	6月	地域合同防災訓練
	7・8月	ラジオ体操・盆踊り



〈防災学習の様子〉

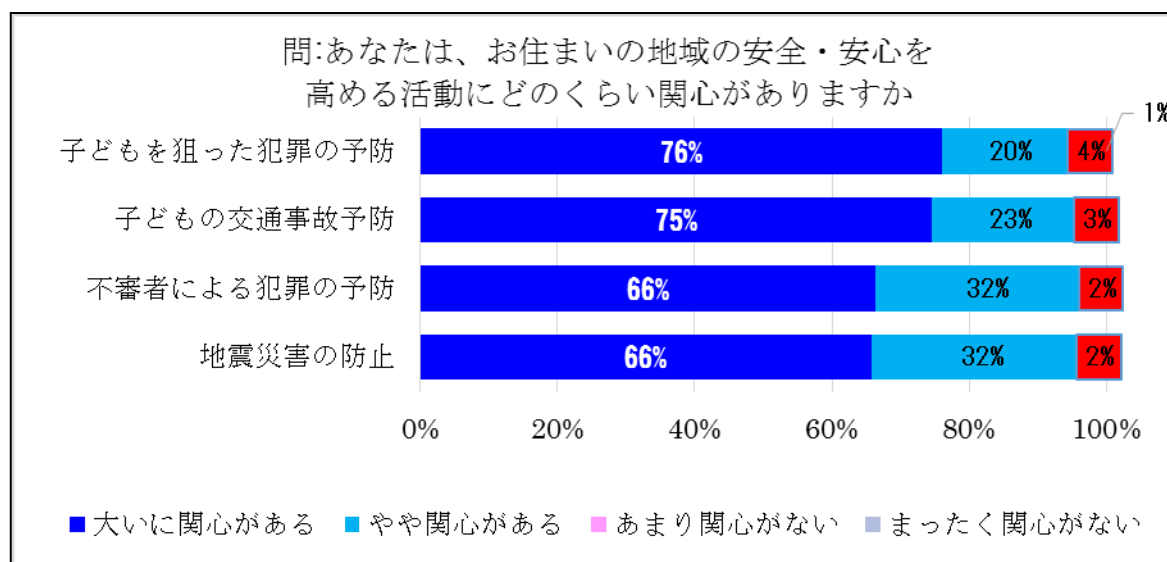


(2) 区民ひろば富士見台

【区民ひろば富士見台・富士見台小学校エリア、地域の安全・安心に関するアンケート】

対象グループ	配布方法：配付数	回収数（回収率）
無作為抽出(富士見台小学区域)	郵送:500	137 (27.4%)
富士見台小学校保護者	各学級配布:220	204(92.7%)
区民ひろば富士見台利用者	区民ひろば配布:200	167(83.5%)
こども 110 番の家登録者	児童が訪問・配付:42	26(61.9%)
合計	962	534 (55.5%)

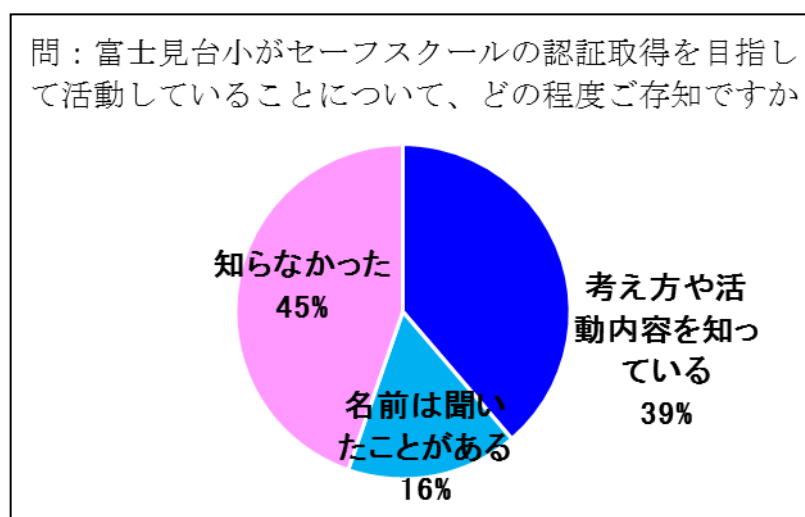
富士見台小学校の学区域全体で、アンケート調査を行いました。



犯罪や交通事故、災害の予防に関する関心は極めて高く、いずれも95%を超えています。地域全体が安全・安心に対して高い関心をもっていることが分かります。

しかし、富士見台小学校のインターナショナルセーフスクールの取組についての認知度（下記グラフ）に関しては、「知らなかった」が45%と高く、地域に向けての発信の工夫が課題のひとつです。

そこで、さまざまな交流活動を通して、本校の取組を伝えていこうと考えました。



【区民ひろば富士見台と富士見台小学校の交流】

富士見台小の児童が放課後、休日、多数利用しています。また、授業を通した交流もしています。

	開催月	内 容
2014年	5月	おじいちゃん・おばあちゃんの似顔絵を描こう
	9月	2年生 地域学習の発表
	10月	セーフスクール代表委員 スローガンの報告
	10月	6年生 防災マップの発表
	12月	3年生 安全マップの発表
2015年	5月	おじいちゃん・おばあちゃんの似顔絵を描こう

〈似顔絵を描こう〉



〈スローガンの報告〉



2014
富士見台小
児童 利用者数
8,215人

(3) 池袋消防署 長崎消防出張所

避難訓練・「防災デー」などで、協力、サポートしています。

〈防災デー・心肺蘇生法訓練〉

	開催月	内 容
2014年	9月	校内「防災デー」 心肺蘇生法講習 家具転倒防止講習
	10月	避難訓練 消火体験（煙体験）
2015年	11月	校内「安全デー」



(4) 目白警察署（交通課・少年係・スクールサポーター）

安全指導（交通安全・防犯・・・不審者対応・情報モラル）に関するバックアップをしています。

	開催月	内 容
2014年	4月	入学児童の安全な歩行について
	4月	4年生 けいさつの仕事と人々の協力
	7月	3年生 富士見台安全マップを作ろう
	7月	セーフティ教室
	10月	自転車安全教室
	1月16日	2学期活動評価
	3月16日	1年間の取組をふり返って
2015年	4月	交通安全教室
	5月	3世代交流安全教室
	6月	2年生 町探検
	6月	自転車シミュレーター

〈三世代交通安全教室〉



〈新入生安全な歩き方を身に付けよう〉



(5) その他（安全パレード）

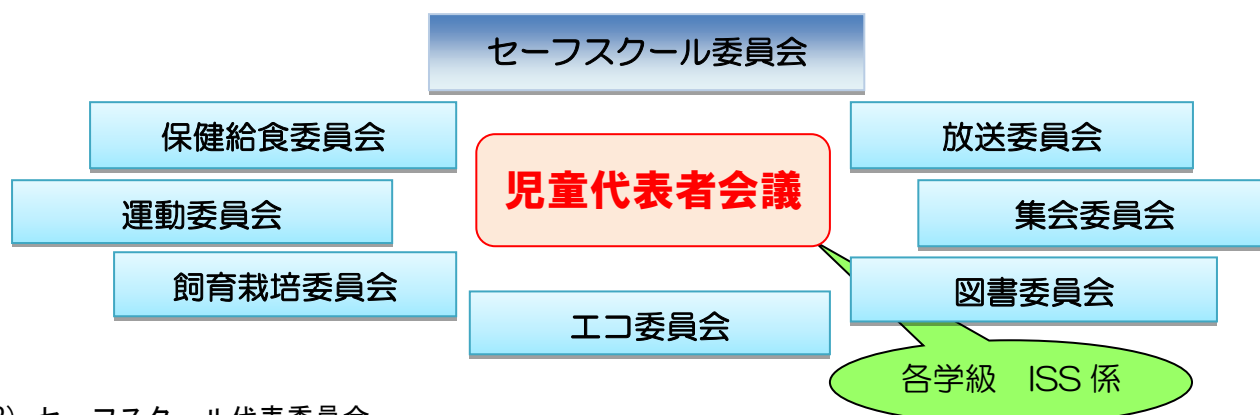
第6地区青少年育成委員会、PTA の方の協力の元に、地域の安全・安心の啓発を児童からも発信しています。



4 児童会組織

(1) 児童代表者会議

各委員会の委員長が出席する会議です。会議では、全校児童の ISS 活動の取組を相談・決定したり、各委員会の ISS 活動の取組の進捗状況を報告したりします。



(2) セーフスクール代表委員会

ISS の取組の中心となる委員会です。5・6年生児童10名で構成しています。ISS 活動を柱とし、自治的なもの、学校行事に関わること（もの）について学校の中心となり、過ごしやすい学校生活（安全・安心）を推進します。全学年にセーフスクール新聞や掲示板等を活用して、「安全・安心な学校づくり」についての活動内容を知らせたり、委員会や学級からの課題を聞いたりしています。また「あわてず歩こう調査隊」として、休み時間の校舎内の歩行ルールを守り、安全に生活できているかを点検しています。

(3) 他7委員会

保健給食委員会	校内で起きたけがの発生場所や学年をもとにシールを張り「けがのヒヤリマップ」を作成しています。他にもうがい・手洗い・歯磨きの推進や毎日の給食を栄養黑板や放送で紹介し、健康な体づくりに向けた呼びかけもしています。
運動委員会	校庭で安全に遊べるよう考えた標語「遊ぶとき 自分の行動 気をつけよう」を基に、休み時間に遊具の使い方や片付け方を見回って声をかけています。また6月には、熱中症を予防するポスターを掲示し、呼びかけています。
飼育栽培委員会	飼育しているウサギとのふれ合い会や花の栽培活動を通し、身近な生き物に目を向けさせ、命の大切さを呼びかけるとともに、優しい心を育むための活動をしています。
エコ委員会	校内ビオトープでの自然観察会や緑の募金活動を通し、身近な自然に目を向けさせ、命の大切さを呼びかけています。
図書委員会	安全に関する本を、図書集会で読み聞かせをしました。図書館で、安心して本を読み、心豊かになれるよう、図書館の使い方のルールを守るためのポスターを作成し、休み時間の貸し出しを行っています。
集会委員会	防災ビンゴ集会など、全校で取り組める楽しい集会を企画するとともに、安全集会を計画して安全に関する知識を楽しく学び、安全安心な学校づくりを目指しています。
放送委員会	お昼の放送で、安全に関するクイズを行ったり、週の安全目標を発表したりするなど、全校の友達が安全に生活できるよう放送しています。

指標2 セーフスクール推進組織とセーフコミュニティに基づいた 地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策がある

1 『豊かな心と確かな学力、健康な体を育てる学校づくり』 ー学校経営方針(2015年)

子供たち一人一人に応じた「基礎学力の定着」と「心の教育」と「安全教育」を重点に取り組みます。そして、富士見台小学校は「一人一人が伸びる学校」「家庭・地域と共に歩む学校」「安全教育を推進し、発信する学校」をめざし、学校教育を力強く創造します。

○創立65周年を迎え、改めて地域社会とともに、学校と保護者、地域が協働して、安全・安心な学校システムをつくり、学校像に掲げる「子供一人一人が伸びる学校 家庭・地域と共に歩む学校 安全教育を推進し、発信する学校」を目指します。

○子供たちに危険予測・回避の行動力を育成していきます。そして、安全な環境について、子供たち自らがデータを基に問題点を考え、解決していくことで、子供たちの主体性や自律性を育てます。

○『心の教育』を充実させ、子供たちが心やさしく豊かに育つための内容を取り入れます。

2 児童会活動のスローガン (2014年7月)

「安全 守ろう 富士見台 世界へ 広げる 安心の輪」

全校から募集したすてきな言葉の中から、セーフスクール代表委員会が提案し、児童会活動の目標となるスローガンとしました。

そのスローガンを、7メートルの横断幕に描き、児童集会で全児童に発表し宣言しました。

児童が主体となって活動するための合言葉として校内に掲示してあります。



スローガン発表の児童集会

3 研究主題「子供一人一人が主体的に学ぶ、危険回避能力の育成」

～地域と豊かに関わり合いながら高める安全意識～ (2014年4月～)

地域連携という地域の教育力も生かしながら、危機回避能力の育成を実現することをめざしています。児童が主体的に学習に取り組み、安全・安心に過ごせるような環境を大切にする気持ちを深めることができるような学習材や指導方法・指導体制などを、組織的に計画し、実施していきます。全ての学年・専科が各学期一回以上の安全教育に関連した授業のプログラムを開発し、実践を行い、全教職員で協議する機会を設け、共通理解を図ります。

授業研究の中で安全教育を進めるポイントとして、以下の三点を定めています。

- (1) 校内のケガ(外傷と心)の減少をめざした取組
- (2) 交通事故防止安全意識向上のための取組

4 PTAによる安全な学校づくりに関する方針

ISS認証活動を通して、子供たちの主体性を高め、より安全・安心な環境を作っていこう！

- ・ 夕方から夜間の「地域パトロール」、登校時刻の「交差点での安全指導」：校外指導委員会
- ・ 警察や区の安全対策担当者を講師とした年1の回「スクールガード講習会」：校外指導委員会
- ・ 毎月10日の「NOテレビ NOゲームデー」：成人教育委員会
- ・ 毎月1回の「読み聞かせ」
- ・ 「子ども110番の家」への訪問活動



5 「豊島区教育ビジョン2015」による安全・安心な学校（2015年）

【3 「健やかな心と体」の育成 3-Ⅲ安全・安心な学校】

学校は、幼児・児童・生徒が安心して健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行うところである。その基盤として、安全で安心な環境が確保されている必要がある。本区では、学校、保護者、地域と連携し、幼児・児童・生徒の安全・安心の確保に積極的に取り組んでいる。今後も、信頼関係が結ばれた落ち着いた学級・学校づくりをはじめ、インターナショナルセーフスクール認証校の朋有小学校、認証取得を目指す富士見台小学校の活動の成果を全小・中学校で共有し、区内の警察署、消防署、区の治安対策課や防災課などと連携を図るなど、学校安全に関する様々な施策の拡充を図る必要がある。

6 セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針（2010年）

豊島区セーフコミュニティ推進協議会の下にある、学校の安全対策委員会（地域対策委員会）において基本的な政策を協議し、セーフスクールの活動を進めています。

予防対象	課 題	対 策
校内におけるけが (休み時間の校庭のけが) (授業中のけが)	児童の危険予測回避能力の育成	児童主体のセーフスクール委員会の取組
	学校の指導体制の改善・充実	安全教育カリキュラムの作成
	いじめの防止	心の教育の推進
校外におけるけが (自転車による交通事故)	交通安全意識の向上	自転車安全教室の実施
		保護者・地域の見守り活動

7 「安全教育プログラム」—東京都教育委員会 2015 年

東京都教育委員会は、全ての子供たちに、危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質・能力を身に付けさせる安全教育を推進するため、平成 21 年度から総合的な指導資料である「安全教育プログラム」を作成し、都内公立学校の全ての教員に配布しています。配付された資料は、安全教育の充実のために各学校で活用されています。

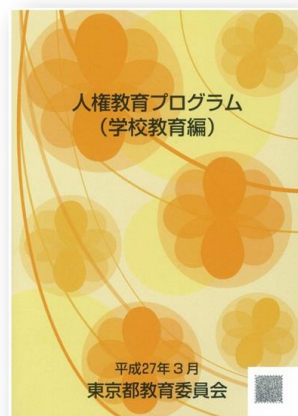


8 「いじめ防止教育プログラム」—東京都教育委員会 2014 年

東京都教職員センターでは、東京都教育委員会が取り組んでいるいじめの総合対策の一環として、平成 24 年 10 月から「いじめ問題に関する研究」を進めてきました。この研究について、より具体化し実践例を掲載した「いじめ問題に対応できる力を育てるために—いじめ防止教育プログラム—」を発行しました。都内公立学校の全ての教員に配布され、各学校で活用されています。

9 「人権教育プログラム」—東京都教育委員会 2015 年

「人権教育プログラム（学校教育編）」は、幼稚園・学校の教員向けの人権教育に関する実践的な手引きです。その内容として、人権教育を推進するための考え方、人権教育の全体計画づくりや年間指導計画づくり、学校種別ごとの実践・指導事例、人権教育についての関係資料等を掲載し、各学校で活用されています。



10 「視聴覚教材（DVD）」—東京都教育委員会

2013 年 「STOP いじめ」

- ・いじめ防止と根絶を目指す指導内容（小学校児童編・保護者編）

2012 年 「守ろう！インターネットのルールとマナー」

- ・情報モラルに関するルールとマナーを身に付ける指導内容（小学校児童編・教員編）

2007 年 「いのちのコトバ」

- ・人権教育、命はかけがえのないものであることを伝える内容

指標3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している

セーフスクールを目指す長期的かつ継続的なプログラムの全体像です。

児童、教員、保護者・地域の対象別プログラムを、整理したものです。1-1、1-2・・・は対策番号を表しています。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 児童の危険予測回避能力の育成 | 4 交通安全意識の向上 |
| 2 学校の指導体制 | 5 環境改善 |
| 3 良好な関係づくり | |

1 児童の危険予測回避能力の育成

活 動 名（活動の主体）	対 象				協力者
	児童	教師	保護者	地域	
1-1「けがをふせごう『気をつけようかい』」（1年）	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・区民ひろば ・警察署 ・警察署交通指導員 ・産業技術研究所 ・消防署
1-2 まちたんけんの 安全（2年）	○	○	○	○	
1-3「地域安全マップをつくろう」（3年）	○	○			
1-4「安全なくらし けいさつの仕事と人々の協力」（4年）	○	○			
1-5「けがの防止」（5年）	○	○			
1-6「防災プロジェクト」（6年）	○	○	○	○	
1-7 心身の安全「自分をみつめよう」（4年）	○	○			

凡例 ①教科・単元名 ②安全教育の視点 ③ねらい

1-1	研究授業の実施（1年）
①	学級活動「けがをふせごう～『気をつけようかい』をやっつけよう～」
②	校内のケガ（外傷）減少の取組
③	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で起こる事故等の危険について理解し、安全に行動できるようにする。（安全教育プログラムⅠ－2より） ・学校の中での正しい行動について考え、危険な行動や遊びをしないようにし、楽しく過ごす。（学習指導要領・特別活動編・学級活動の内容共通事項（2）カより）



1-2	研究授業の実施（2年）
①	生活科「ふしぎ たんけん ふれあい たんけん」
②	交通事故防止のための安全意識向上の取組
③	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる町の商店や公共施設などの見学を自分たちで計画し、計画に基づいて探検することができるようにする。 ・町で働く人や町の様子などを観察したり、調べたりすることで、自分たちの地域に関心を持ち、人と関わる喜びを味わうことがで



	<p>きるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が通う学校と町に、危険な場所や、安全を守る人がいることを知り、安全に過ごすために、自分ができることを考えることができるようにする。
--	--

1-3	研究授業の実施（3年）
①	総合的な学習の時間「地域安全マップをつくろう」
②	交通事故防止・安全意識の向上
③	<ul style="list-style-type: none"> ・生活安全上、交通安全上の危険に気づき、自分の身を自分で守る方法を知る。 ・自分の住んでいる地域を調べ、工夫している取り組みを知る。 ・自ら危険を予測し、実生活に生かすことができる。



1-4	研究授業の実施（4年）
①	社会科「安全なくらし けいさつの仕事と人々の協力」
②	交通事故防止・安全意識の向上
③	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々を事故や事件から守り、安全な生活を送れるようにするための工夫や努力について理解する。 ・実際に調査したり、資料を活用したりして調べ、まとめることができるようにする。 ・安全な生活を守るために警察や関係諸機関は地域の人々と協力していることについてとらえ、自分にできることを考えることができる。



1-5	研究授業の実施（5年）
①	体育科「けがの防止」
②	交通事故防止のための安全意識向上の取組 校内のケガ（外傷と心）減少の取組
③	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りの生活の危険から起こるけがの発生要因や防止の方法について理解する。 ・けがが発生したときに、その症状の悪化を防ぐための簡単な手当てを速やかに行えるようになる。 ・周囲の危険な環境に気が付き、その環境を整えようとすることができる。



1-6	研究授業の実施（6年）
①	総合的な学習の時間「防災プロジェクト」
②	防災意識の向上の取組

③	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の災害の特性や防災体制について理解する。 ・災害による危険を予測し、災害時には自ら危険を回避する判断力を身に付ける。 ・災害時に、家族や友達、周囲の人々の安全にも配慮し役立つ行動をしようとする思いをもつ。
---	---



1-7 研究授業の実施（専科）	
①	音楽科（4年） 心身の安全「自分をみつめよう」 ～「音をきき合ってあわせよう」の導入～
②	校内のけが減少 不安や悩みの対処の方法を知る。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の行動に、落ち込んだり、自信がなくなったりしたときの気持ちの切り替えをする方法の一つとして、学校生活で得た歌唱活動を生かし、実際の生活に生かせるようにする。（心身の安全の見地より） ・歌詞全体の内容や一つ一つの言葉の意味を把握し、それを基に楽曲の特徴に合った歌い方を考える。 ・互いの歌声をきき合い、歌声が一つになったり、重なり合ったり、きれいに響き合ったりすることに気づき、合唱への関心・意欲を高める。



2 学校の指導体制

活 動 名（活動の主体）	対 象				協力者
	児童	教師	保護者	地域	
2-1 週ごとのけが発生データの共有（生活指導夕会）	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・区民ひろば ・警察署 ・産業技術研究所 ・消防署
2-2 安全指導日	○	○			
2-3 校内研究	○	○	○	○	
2-4 救急法講習会（5．6年）（教員）	○	○	○	○	
2-5 安全点検表の活用	○	○			
2-6 教科等における安全に配慮した授業	○	○			
2-7 安全に視点をおいた教材等の扱い	○	○			

2-1	1週間単位でのけがの発生データの共有（生活指導夕会）
①	教員×校舎内外
②	毎週木曜日の16:30から15分間、生活指導主任が中心となり、児童のけがの発生状況や生活指導上の問題点を、情報交換します。夕会で示したデータから、予防対策を考え、学級指導や児童会の活動につなげています。
③	教員
2-2	安全指導日

①	児童×通学路・学区域
②	月一回、学級担任が、始業前の時間をつかい、安全に関する指導を行う。年間計画をもとに校外、校内におこりうる危険について学び、危険回避能力を育成する時間としている。毎時間後には ISS ノートに振り返りを行っている。
③	教員

2-3	校内研究 『子供一人一人が主体的に考える、危険回避能力の育成』
①	児童・教員×校舎内外・通学路・学区域
②	毎年、全教員で一つのテーマのもとに研究を続けています。今年度は児童が身近な生活安全や、交通安全、災害安全について課題解決する力の育成を目指し、年間 3 回の研究授業を行います。
③	教員

2-4	救急法講習会
①	教員×校舎内外・通学路・学区域
②	毎年、水泳指導が始まる前に、教員を対象に行う。本校の養護教諭が救急救命法の指導者であるために、本校で 1 時間 30 分程度の実技研修を行う。
③	

2-5	安全点検表の活用
①	教員×校舎内外
②	月に一度学校内の遊具や施設等に破損や欠損がないか点検を行う。その際には安全点検表を活用する。異常箇所や不具合等があった場合には具体的に記入し、対処していく。
③	教員

2-6	教科等における安全に配慮した授業
①	教員×校舎内外
②	年間を通して、校内、校外、災害などにおける危険について発達段階に応じた学習計画を立てている。さらに、道徳授業を中心に心のけがについて児童が考えられる資料を扱い、児童が主体的に危険回避をできるよう指導計画を立てている。
③	教員

2-7	安全に視点をおいた教材等の扱い
①	児童・教員×校舎内外
②	各教科でおこりうる事故やけがの例を挙げ、安全に配慮した授業づくりが行えるよう、パンフレットにまとめた。特にけがの多い体育や理科、図工、家庭科など作業活動の多い教科でのけがを減らすために取り組んでいる。
③	教員



3 良好な関係づくり

活 動 名（活動の主体）	対 象				協力者
	児童	教師	保護者	地域	
3-1 富士見台小学校いじめ防止委員会	○	○	○		・ 区民ひろば ・ 警察署 ・ 弁護士 ・ 産業技術研究所 ・ 学校司書 ・ 消防署
3-2 保健室における心のサポート	○	○			
3-3 異年齢集団（縦割り班）活動	○	○	○	○	
3-4 道徳授業地区公開講座	○	○	○	○	
3-5 全校チャレンジ～音読タイム～	○	○	○		
3-6 教員による読書の啓発活動	○	○			
3-7 募金活動	○	○			
3-8 玄関でのあいさつ運動	○	○	○	○	

3-1	富士見台小学校いじめ防止委員会
①	児童×校舎内外・通学路・学区域 教員×校舎内外
②	「富士見台小学校いじめ防止基本方針」を策定すると共に、その実効的な実施に向けて本組織を設置し、良好な関係づくりのために、年6回以上開催しています。加えて、いじめが確認された場合、「富士見台小学校いじめ対策委員会」を即時開催し、早期解決できるよう組織的な対応をしています。
③	教員・関係諸機関

3-2	保健室における心のサポート
①	児童×校舎内外・通学路・学区域
②	個別の児童についての、保健室来室回数を記録し、回数の多い児童について、担任・カウンセラー・保護者等と連携をとり、心理面でのサポートも行っています。
③	教員（養護教諭）

3-3	異年齢集団（縦割り班）活動
①	児童×校舎内外・通学路・学区域
②	異年齢児童による縦割り班の活動です。この班には全学年児童が所属し、月に一回、6年生がリーダーになり、縦割り遊びや青空給食での会食を行っています。全校遠足でも縦割り班を活用し他学年との交流を進めました。
③	児童・教員



3-4	道徳授業地区公開講座
①	児童・教員・保護者・地域×校舎内外・通学路・学区域
②	年に一回、家庭・学校・地域の人々が協力して心の教育を進めることを目的に、全学級の道徳授業を公開しています。いじめの防止につながる「思いやり・親切」「信頼・友情・協力」「生命尊重」「感謝・奉仕」「勇気」等の内容で授業を行っています。
③	教員

3-5	全校チャレンジ～音読タイム～（研究報告会にて全校音読）
①	児童・保護者・地域×校舎内外・通学路・学区域
②	全児童が、夏休み前と学年末に、学年ごとまたは学校全体で群読発表会を行います。温かい言葉に出会い、豊かに感じ取り、表現する機会を設けることで、相手のことを思いやれる心の教育を目指しています。
③	児童・教員



3-6	教員による読書の啓発活動
①	児童×校舎内外
②	毎朝、始業前のチャレンジタイムにおいて、低学年では担任による読み聞かせを行っています。また、読書集会において教員のお薦めの本の紹介や朗読を行い、教員と児童相互の心がつながる時間となっています。
③	教員



3-7	募金活動
①	児童×校舎内外・通学路・学区域
②	エコ委員会の児童が中心となり「みどりの募金」や保健給食委員会の児童が中心となり「ユニセフ募金」を毎年行っています。「みどりの募金」では、地球規模で残っている自然を守り、植林の大切さについて考え、「ユニセフ募金」では、世界中の子もたちが安全で幸せな生活ができるようお願い行っています。
③	児童（代表委員会）・教員

3-8	玄関でのあいさつ運動
①	児童×校舎内外・通学路・学区域
②	「基本的な生活習慣を身につけた、自立性のある児童」の育成のひとつとして、笑顔で各学年児童が毎月交代で朝のあいさつ運動を行っています。進んで挨拶をすることから人と人との心の交流を目指し、取り組んでいます。
③	児童（代表・セーフスクール委員）・保護者・教員

4 交通安全意識の向上

活 動 名（活動の主体）	対 象				協力者
	児童	教師	保護者	地域	
4-1 学校、保護者、地域の協力による自転車安全教室	○	○	○	○	・ P T A
4-2 小学校卒業まで有効「自転車安全教室修了証」	○	○	○	○	・ 区民ひろば
4-3 三世代交通安全教室	○	○	○	○	・ 警察署
4-4 自転車シミュレータを用いた自転車実技	○	○	○	○	・ 交通指導員
4-5 安全指導日	○	○			・ 宅配便業者
4-6 交通指導員による登下校の安全確保	○	○		○	・ 産業技術研究所
4-7 1年生交通安全教室	○	○		○	・ 消防署

4-8 新1年生の集団下校（4月から12ヶ月間）	○	○		○	・豊島区
4-9 警察署・PTA・豊島区による合同通学路点検	○	○	○	○	
4-10 交差点等の危険箇所における看板標識設置の要望	○	○	○	○	
4-11 広報誌「挑戦 セーフスクール富士見台小」の発行	○	○	○	○	

4-1	学校、保護者、地域の協力による自転車安全教室
①	児童×学区域
②	平成26年度より、交通安全への意識を高め、自転車による事故防止を目指して、自転車安全教室を開催しています。PTAと学校が共催しての、教育課程に位置付けた、全学年実施の行事としました。併せて、児童が普段使用している自転車を、自転車屋さんに点検していただきました。
③	学校・警察署・交通安全協会・自転車屋さん・地域・保護者

4-2	小学校卒業まで有効「自転車安全教室修了証」
①	児童×学区域
②	自転車安全教室を受講した3～6年生の児童に、目白警察署・目白交通安全協会が作成した自転車安全教室修了証を配布しています。各家庭で、保護者と共にペーパーテストを実施し、交通安全に対する理解を深めています。
③	警察署・交通安全協会

4-3	三世代交通安全教室
①	児童×学区域
②	27年度より、地域の方を大勢交えた交通安全教室を実施しました。本物のトラックを用いて、トラックの死角を実際に児童に見せたり、巻き込み実験をしたりと、実感をもって体験しました。また、地域の方々には、歩行シミュレータを体験していただきました。
③	警察署・佐川急便・マツダサイクル・地域・保護者



4-4	自転車シミュレータを用いた自転車実技
①	児童（4～6年生）
②	自転車走行での起こりうる危険について疑似体験をし、日頃の自転車の乗り方について考えるきっかけとなりました。
③	東京都交通対策課・教員



4-5	安全指導日
①	児童×通学路・学区域
②	月1回、朝決められた場所に立ち、児童の登校を見守ります。また、学級担任が校外での交通ルールについて指導します。年間指導計画のもとに、登下校、歩行の仕方、標識について等のテーマで進めています。

③	教員・児童
---	-------

4-6	交通指導員による登下校の安全確保
①	児童×通学路
②	2名の交通指導員が、登下校時での交通事故・事件・災害を防止するため、通学路の安全誘導を行っています。
③	交通指導員・学校

4-7	1年生交通安全教室
①	1年生児童×通学路・学区
②	毎年4月、入学当初の1年生に対して、横断歩道の渡り方や標識の意味などの交通ルールについて、警察から指導を受けます。実際に通学路を歩き、道路を横断する練習もします。
③	警察署・教員



4-8	新1年生の集団下校（4月から12か月間）
①	1年生児童×通学路
②	1年生は、入学して12ヶ月間、通学路を覚え、交通ルールを守って安全に下校することができるよう、帰宅方面ごとのコースに分かれ、1列で下校しています。
③	交通指導員・教員（担任・専科）・用務

4-9	警察署・PTA・豊島区による合同通学路点検
①	地域×学区
②	児童が登下校で利用する通学路の安全を確保するため、年2回、警察署・PTA・豊島区学校運営課が協力し、合同点検を行っています。危険箇所については、改善の要望を出します。
③	警察署・PTA・豊島区学校運営課・学校



4-10	交差点等の危険箇所における看板標識設置の要望
①	児童・保護者・地域×通学路・学区
②	本校の校門前が交差点になっており、度々出会い頭の事故が起こりそうになっていたため、目白警察に標識設置の要望を出し、児童多数の危険を知らせる看板を設置してもらえることとなりました。
③	学校・警察署

4-11	広報誌「挑戦 セーフスクール富士見台小」の発行
①	地域・保護者・児童・教員×校舎内外・通学路・学区
②	インターナショナルセーフスクールに向けた学校の取組を紹介した広報紙を、地域対策委員会から発行しています。2014年12月に第1号を発行し、児童会の活発な取組や地域の方の応援の音が、幅広

	い年齢層の方にも読んでいただけるよう、分かりやすく発信しています。
③	地域対策委員会

5 環境改善

活 動 名（活動の主体）	対 象				協力者
	児童	教師	保護者	地域	
5-1 校庭の側溝ふたの取り替え（児童代表者会）	○	○	○	○	・ 豊島区
5-2 階段の手すりの設置（児童代表者会）	○	○	○	○	
5-3 廊下階段歩行のルール改善のためのポスター掲示 （ISS委員会）	○	○	○	○	
5-4 校庭改修（児童代表者会）	○	○	○	○	

5-1	校庭の側溝ふたの取り替え
①	児童代表者会×校庭
②	校庭の側溝のふたが滑りやすいことが、校長との昼食会で報告があり、危険回避のため、即時対応しました。
③	学校



5-2	階段の手すりの設置
①	児童代表者会×校舎内
②	1年生が階段を上り下りするとき、手すりが必要だという提案があり、危険回避のため、即時対応しました。
③	警察署・教員



5-3	廊下階段歩行のルール改善のためのポスター掲示
①	児童
②	廊下階段歩行のルールを改善するために、階段や廊下に歩行者の自覚を促す掲示物を作成しています。
③	警察署・教員



5-4	校庭改修
①	児童
②	校庭の目に見えない傾きや凹凸を改善し、転倒事故を防ぐために校舎側の半分を改修し水平にしています。改修工事（2015.1月～3月）後の転倒事故は0件です。
③	豊島区・教員

指標4 ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラムを実施している

1 ハイリスクの1年生を対象とした取組

(1) 入学3日目の交通安全教室

ハイリスクのグループの1年生に対して、入学後3日目に交通安全教室を実施しています。道路の渡り方、歩道の歩き方、信号のある横断歩道の渡り方を目白警察と連携して学んでいます。富士見台小学校の学区域付近には、西武池袋線が通っており、踏切があります。踏切での安全な横断についても、通学路を使って、実際の場面で指導をしています。

(2) 12ヶ月を通した集団下校

小学校に入学したばかりの1年生は、下校時に5つのコースに分かれ、集団で下校します。1学期は学年合同で、2学期以降はクラスごとに、12ヶ月間を通して集団下校をしています。

このことにより、交通ルールを守って、安全に下校できるようにします。

2 けがの多い月の対応（5月・9月）

(1) 月別ケガ数（保健室での処置数）

保健室での処置数は、5・6月と9月以降に多くなっています。この時期のケガを減らしていくために、以下の対応をしています。



月別ケガ数(保健室での処置数)



①「授業の中の安全」による指導の点検

道具（教具）をよく使う「理科・体育科・家庭科・図画工作科・生活科」について、道具・用具・器具を使用する際の安全指導事項を集めて、冊子にしました。

各教科の分科会ごとに資料を集め、全職員で共通理解を図りました。また、実技を伴う教科については、安全ポイントを使用場所に掲示し啓発しています。

②遊びのルールの徹底と指導

20分休み、昼休みの時間に、校庭で様々な遊びが交錯してケガが発生することがありました。そこで、遊ぶ内容によって場所を決めるなど、一人ひとりが危険を予測できるよう学級で話し合うことにより、ケガの予防に努めました。



3 熱中症への対応

(1) 東京23区熱中症患者数

東京消防庁のデータによると、月別の熱中症による救急搬送人員は、各年ともに7月、8月の発生が多いですが、梅雨時期の6月や残暑の9月にも熱中症による汲々搬送が見られます。

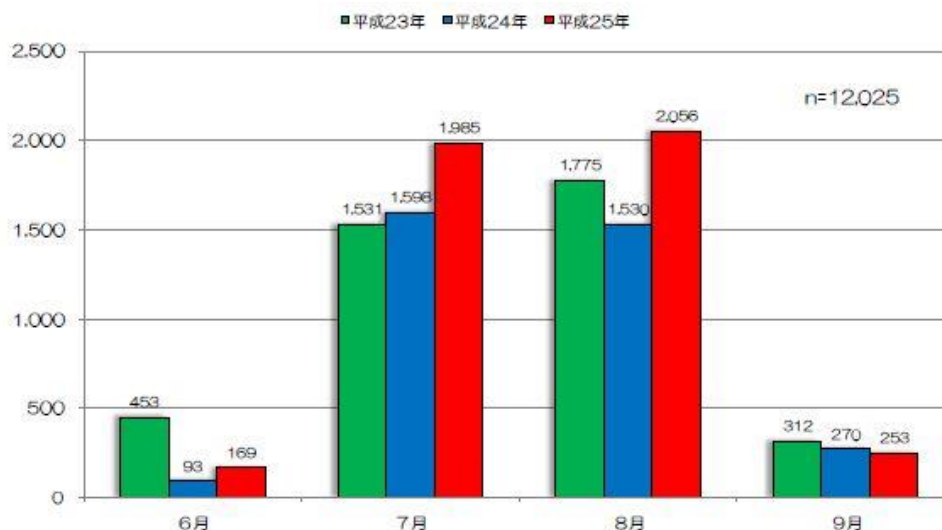


図2 月別の熱中症による救急搬送人員

(2) 熱中症予防に対する取組

運動委員会では、熱中症患者が急増する7月と、運動会の練習が行われる9月に、熱中症予防のポスターを作成しています。全校朝会での呼びかけと、各クラスへの呼び掛け、ポスターの掲示を通して、予防に努めています。また、下表の通り、気温と湿度で危険度を判断し、指導者は水分補給と日陰での休憩を30分毎に実施するよう指導を統一しています。

気温 (参考)	WBGT 温度	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
31～35℃	28～31℃	厳重警戒 (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休憩をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28～31℃	25～28℃	警戒 (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～25℃	注意 (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

日本体育協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2013) より

4 水難事故への対応



水難事故に対応するための取組として、7月の水泳指導期間中に、日本赤十字社と連携し、全学年で着衣泳を実施しています。着衣を身につけたまま水に落ちた時に、どう対処すればよいかを体験したり、着衣のままで、ある程度長く浮くことができるようにする練習をしたりすることを通して、水難事故に遭ったときの技能や心構えを養っています。

東京都水難者数 (2014)

月	総数
7月	18
8月	

出典：警察庁

5 大規模地震に備えた対応

(1) 校舎の安全対策

2004年～2005年に耐震補強工事を行っています。

全教室の窓ガラスには、飛散防止ガラスを入れ、地震の被害を最小限にする処置をとっています。

校舎内の備蓄倉庫には500人が3日間過ごせる、食料・水・毛布・簡易トイレがあります。

(2) 避難訓練

年間を通して、地震・緊急時・火災・不審者にそなえ、訓練を行います。

これにより、災害発生時の基本行動を繰り返し訓練します。

年間実施回数 11 回

月日	ねらい	想定	主な内容	避難場所
4/25 10:50	緊急時の保護者への連絡 確実な引き渡し訓練	「警戒宣言」発令 時における引き 渡し訓練	1 保護者へ児童を引き渡す。 2 残留児童を保護する。	校庭
5/22 9:35	緊急地震速報の音を知る 地震発生時の基本行動と 避難方法の確認 校庭への二次避難の仕方 地区班編制と集合教室の 確認	緊急地震速報 大規模地震発生	1 地震発生のお知らせを聞く。 2 余震を警戒し、校庭に避難する。	校庭
6/22 8:40	第二避難場所（椎名町公 園）への安全な避難	火災	1 火災発生のお知らせを聞く。 2 椎名町公園へ避難する。	椎名町 公園
7/15 13:40	不審者情報があり、単独で 下校させるには危険が予 測される時の地区班下校 の仕方の確認	地区班一斉下校 を必要とする緊 急時の対応	1 約束事を確認する。 2 集団下校の際の並び方を確認する。	地区班 教室
9/1 10:00	第三避難場所（山手通り） への安全な避難	火災	1 避難経路を確認する。	山手 通り
10/16 9:50	放送機器が使用不可の場 合の避難方法の確認	火災 職員室より出火	1 鐘の音や大声から通報を聞く。 2 近くの先生の指示に従う。	校庭
11/13 8:12	登校中の避難 出席者不明時の児童掌握	地震発生 余震終了後	1 避難の仕方を確認する。	校庭
12/11 11:10	不審者侵入への対応	不審者進入	1 警察に通報を想定する。 2 机の移動の仕方、隠れ場所を確認する。	体育館
1/20 13:25	清掃時の避難 避難経路に障害物が落ち ている時の避難の仕方	地震	1 指示を正しく聞く。 2 清掃用具の始末の仕方、行動の仕方を確認する。	校庭
2/16 10:25	休憩時、散在時の避難 管理職不在時の避難	火災 給食室より出火	1 鐘の音や大声から通報を聞く。 2 近くの先生の指示に従う。	校庭
3/10 10:05	避難訓練のまとめ 放送機器が使用不可の場 合の避難方法の確認	地震後 民家より出火	1 突然の通報に対応する。 2 訓練を生かし、避難行動をとる。	校庭

(3) 地域と連携した防災デーの取組

【日時】 平成26年9月13日 土曜日

8時30分～10時5分 雨天実施

※10時25分～6年生による防災マップ発表

【ねらい】

- ・災害のおそろしさを知り、災害時の対処方法について理解を深めるとともに、自分の命は自分で守ろうとする態度を養う。
- ・災害時に自分が行うことができる行動を学び、地域の中で生かそうとする態度を養う。
- ・保護者の方に参加、参観していただき、親子での学びを深める。

【学年ごとのねらいと体験内容】

- 1・2年 ◎家具の転倒防止の大切さを知り、家具固定の体験をする。
- 3年 ◎避難所での簡単な道具を使つての炊き出しを体験する。
- 4年 ◎避難所での生活の疑似体験や簡易トイレの組み立てができるようになる。
- 5・6年 ◎救急救命法の仕方を知り、心肺蘇生法を身に付ける。



(4) 防災マップの作成と発表

6年生の総合的な学習の時間「防災プロジェクト」の学習において、防災マップを作成し、防災デーの後半の時間を使って全校児童、保護者への発表を行いました。また、地域の方々への啓発を兼ねて区民ひろば富士見台での発表も行いました。



指標5 全ての取組は根拠に基づいて行われている

1 課題を導く原因分析

校内

けがの発生状況より

2014年学校内での軽微なものを含むけがは317件でした。時間帯別のけがは、昼休み(20%)中休み(16%)が多い。また、体育の時間でのけがは、75件(24%)になります。3つの時間帯を総合してみると、全体の60%となります。『グラフ①②参照』

2014年度の通院を要するけがの発生率は6.9%となっています。特に通院したときのけがは骨折と擦り傷・切り傷が多いです。

『グラフ③④参照』

心のけがの発端となるいじめは、一旦は解消されても再発することがあります。

いじめの発生状況

富士見台小学校「いじめ実態調査」より

	2013年度	2014年度	2015年度※7月現在
いじめ件数	1	2	0
解消件数	1	2	0
継続指導中	0	0	0

また、ハイパーQIによる児童の学級や友達に対する満足度の結果から学校で疎外感を感じている児童が2%程度いることがわかります。(下図参照)

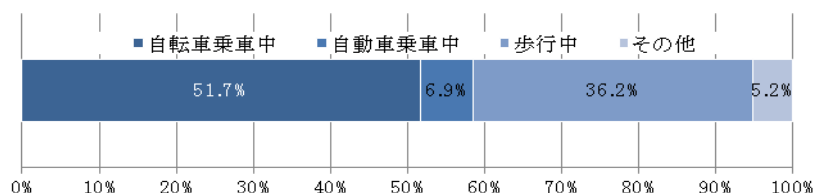
	2013年度	2014年度	2015年度9月現在
5・6年児童数	111人	92人	81人
予防対象人数	52人	34人	40人
発生率	47%	37%	49%

校外

本校児童の交通事故は2013年度2件、2014年度2件、2015年度(7月現在)1件発生しており、1件を除いて自転車乗車中の事故でした。

区内交通事故で救急搬送された5歳～14歳の子どもの51.7%は、自転車乗車中に受傷しています。

5～14歳の交通事故発生状況(豊島区 n=58) 2010救急搬送データ



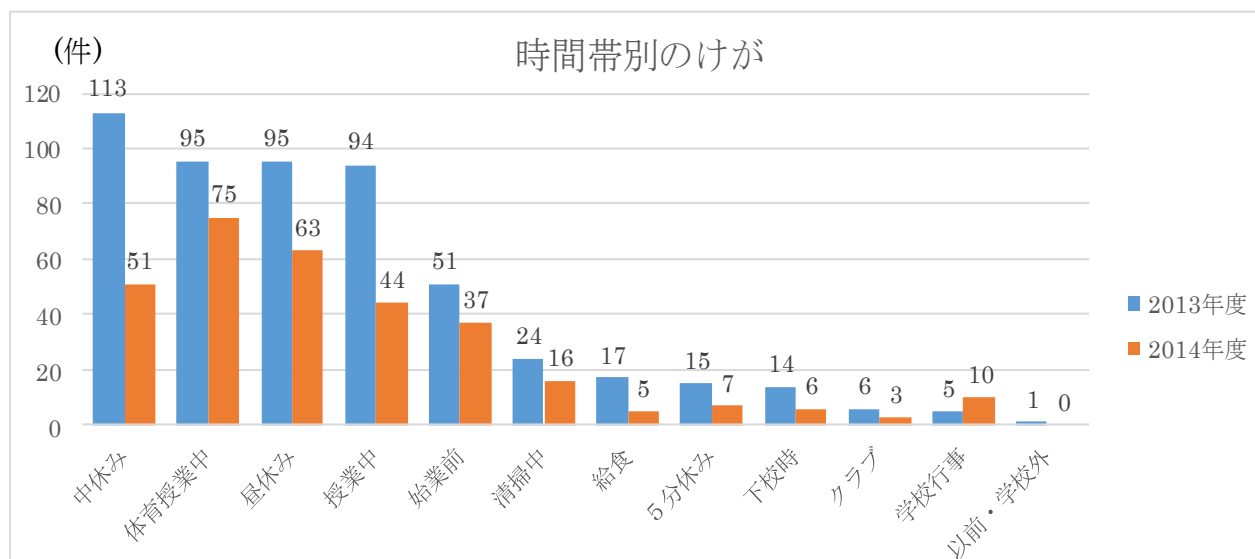
災害

東京都は50年以内にM8を超える大地震が起こるといわれています。

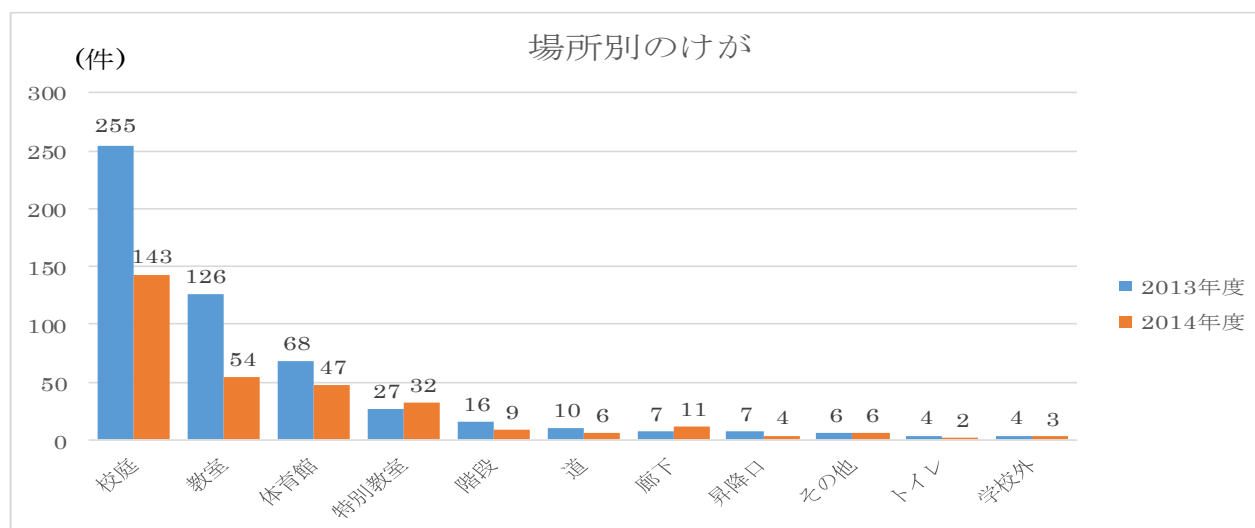
また、本校学区域内では災害時に火災・建物倒壊危険度の高い地域があり、災害への対策もけがを減らすための大きな課題となります。

M8～9 の首都直下型地震発生率 (文部科学省 2015 年)			地震に関する地域危険度測定調査 (東京都 2013 年)					
10 年	30 年	50 年	危険度	5	4	3	2	1
20%	70%	90%	本校学区		☆	☆		

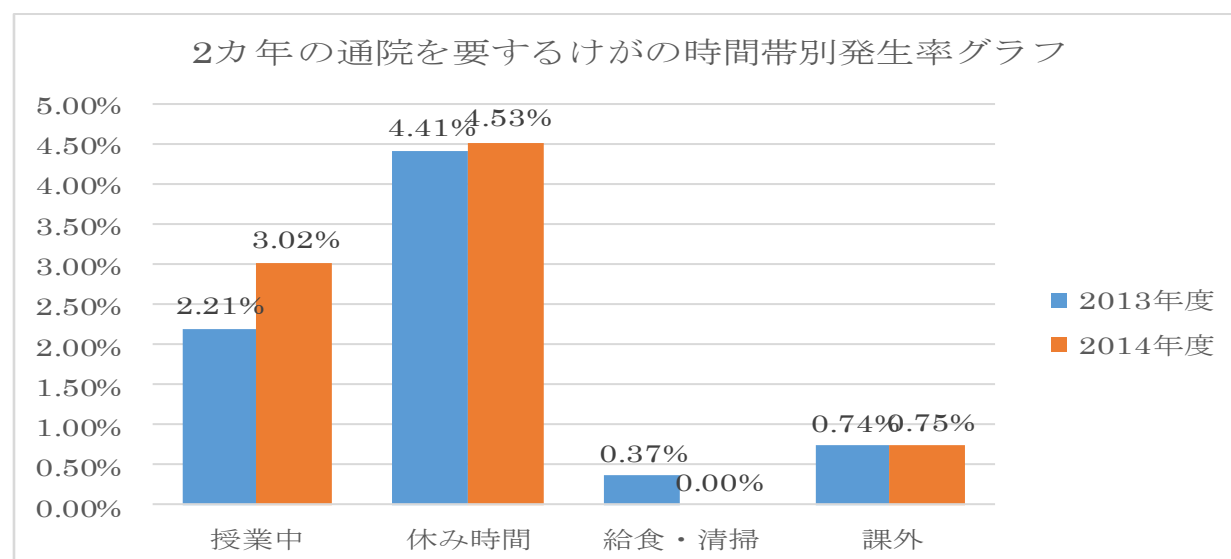
グラフ① 校内での時間別けが発生数（再掲 2013・2014 富士見台小学校）



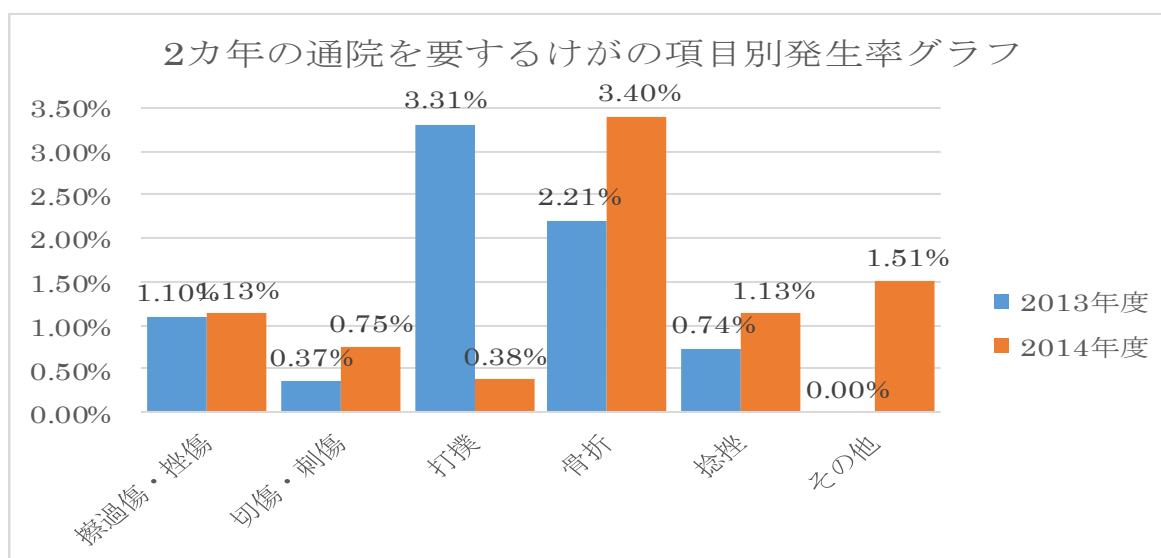
グラフ② 場所別けがの発生数（再掲 2013・2014 富士見台小学校）



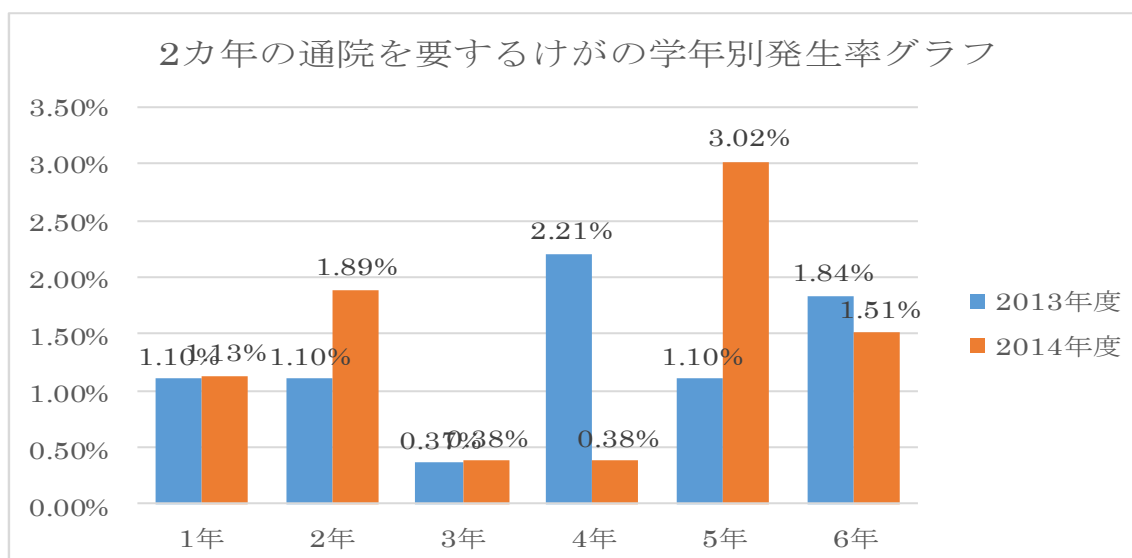
グラフ③ 通院を要するけがの時間帯別発生率（2013・2014 富士見台小学校）



グラフ④ 通院を要するけがの項目別発生率（再掲 2013・2014年 富士見台小学校）



グラフ④ 通院を要するけがの学年別発生率（再掲 2013・2014年 富士見台小学校）



2 10 の重点取組

予防対象	課題	対 策
休み時間の 校庭のけが 授業中のけが (校内におけるけが)	児童の危険予測 回避能力の育成	(1) 児童意識調査 (2) 児童会が主体的に考えた取組 (3) 授業研究を通じた児童の取組
	学校の指導体制の 改善・充実	(4) 安全教育カリキュラムの作成 (5) 教員用安全指導冊子
	いじめの防止	(6) いじめ実態調査・ハイパーQUに基づく対応 (7) 保健室における心理面からのサポート (8) 異年齢集団活動・ビオトープでの活動・動植物ふれあい 体験活動
自転車による 交通事故 (校外におけるけが)	交通安全意識の 向上	(9) 学校・保護者・地域の協力による交通安全教室
災害によるけが	災害安全意識の 向上	(10) 学校・保護者・地域の協力による安全デー

(1) 児童意識調査

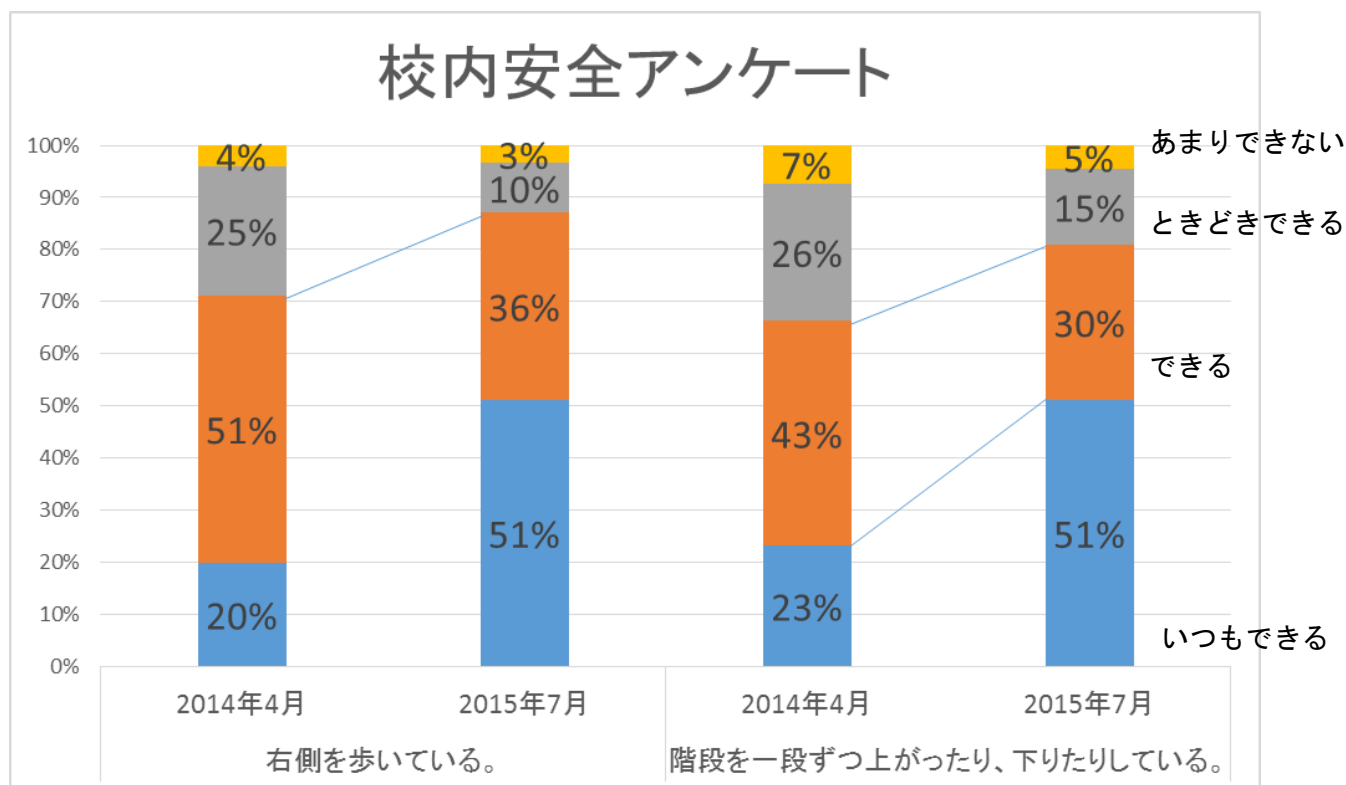
毎年4月と7月に学校内外の安全について、全児童対象に「安全アンケート」を実施します。調査結果は、教師が集計し、毎月の安全指導日や学級活動等で児童の指導に生かしています。

<安全アンケート項目>

- 1 廊下を静かに歩いている。
- 2 右側を歩いている。
- 3 曲がり角では前方に気をつけて歩いている。
- 4 階段を一段ずつ上がったり、下りたりしている。
- 5 教室移動をする時には、整列して移動している。
- 6 複数名で歩くときに横に並んで歩いていない。
- 7 移動している時「危ない」と感じたことがある。

図 5-6 児童の意識（安全アンケート 2014 年 4 月 n=266 2015 年 7 月 n=265）

「右側を歩いている」 「階段を一段ずつ上がったり、下りたりしている」



<考察>

○2014 年と 2015 年を比べてみると、「右側を歩いている」に対しては、毎回できていると回答した児童が約 2.5 倍以上に増えている。これは、I S S 委員会の慌てず歩こう調査隊が休み時間に校内に立ったためと考えられる。また、階段を一段ずつ上がったり、下がったりしているに対しても同様に約 2.2 倍と増えている。児童が作った校内の危険に気を付けるように促したキャラクター「きをつけようかい だんだん」が全校に浸透したためと考えられる。

(2) 児童会が主体的に考えた取組

毎月一回の委員会活動で話し合い、安全安心な学校を目指し、活動に取り組んでいます。

セーフスクール代表委員会

目標

ISS 認証に向けて全校児童が安心安全に過ごせるように取り組む

「あわてず歩こう調査隊」



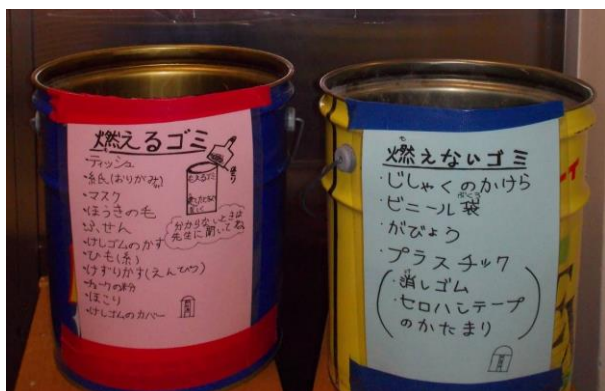
廊下を走っている人をカウントし、全校に廊下はゆっくり慌てず歩こうと啓発運動をしています。

エコ委員会

目標

エコで世界を救おう！ 第一歩は富士見台

「ごみ分別ゴミ箱」



分別の仕方を分かりやすくゴミ箱に掲示して、ゴミを処理する方の安全を守ります。

集会委員会

目標

安心安全 ISS みんなのしく集会委員会

「安全集会」



安心安全に関するクイズを出して、楽しみながら安心安全への意識を高めています。

図書委員会

目標

みんなに本を好きになってもらうために、楽しく一生懸命委員会活動に取り組む

「読書集会」



防災に関する本や心豊かになる本を図書委員会が全校児童に向け紹介します。

飼育栽培委員会

目標

動物と植物に優しく接し全校に興味をもってもらえるように工夫しよう

「うさぎのゆきとのふれあい会」



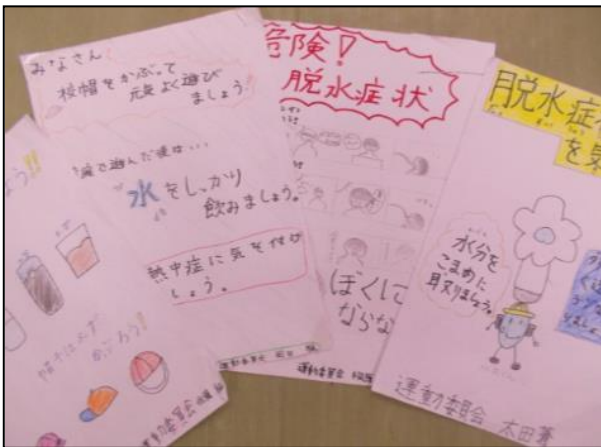
1 学期に一回、うさぎのゆきとのふれあい会を実施し、心豊かになる活動をしています。

運動委員会

目標

みんなが楽しく安全に運動ができるような学校にする

「熱中症予防ポスター」



校庭の使い方や熱中症予防などのポスターを作成し、各教室に掲示して呼びかけを行っています。

保健・給食委員会

目標

給食を残さず食べて健康な体をつくり、けがをへらそう

「残さず食べようデーの呼びかけ」



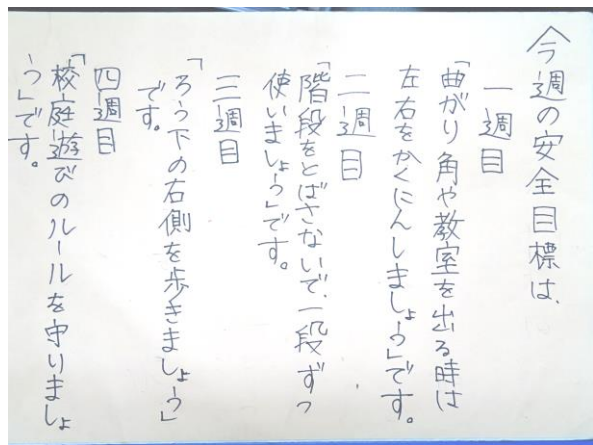
毎月10日に各教室に「給食を残さず食べよう」と呼びかけをしています。

放送委員会

目標

放送で全校に安全を呼びかける

「安全を呼びかける放送」



給食の時間の放送では、安心安全にまつわるクイズを出題しています。また、放送の最後には週の安全目標を全校児童に呼びかけています。

(3) 授業研究を通じた児童の取組

研究授業を通して、効果的な安全のための授業が組織的、計画的に行われています。

○研究経過 (2014 年～2015 年)

月 日	参加者	参加者数	実施内容
4 月 5 日	児童・教職員	18人	今年度の研究について
4 月 1 8 日	教職員	18人	研究日程、各学年の年間授業計画等
6 月 4 日	児童・教職員・講師	70人	研究授業① 2 年生活科「ふしぎたんけんふれあいたんけん」
6 月 2 5 日	児童・教職員・講師	60人	研究授業② 4 年社会科「けいさつの仕事と人々の協力」
7 月 1 1 日	児童・教職員・講師	70人	研究授業③ 3 年総合的学習の時間「地域安全マップをつくろう」
8 月 2 6 日	教職員・講師	20人	研究会「教科における安全指導の計画作り」
9 月 3 日	児童・教職員・講師	60人	研究授業④ 6 年総合的学習の時間「防災プロジェクト」
9 月 1 8 日	児童・教職員・講師	70人	研究授業⑤ 1 年学級活動「けがをふせごう」
1 0 月 8 日	児童・教職員・講師	60人	研究授業⑥ 音楽科「自分をみつめよう」
1 0 月 2 9 日	児童・教職員・講師	50人	研究授業⑦ 若手研究グループ理科「風のはたらき」
1 1 月 5 日	児童・教職員・講師	50人	研究授業⑧ 若手研究グループ国語科「はたらく車すごいぞずかん で紹介しよう」
1 2 月 1 5 日	児童・教職員・講師	20人	研究授業⑨保健「けがの防止」
2 月 1 4 日	教職員・講師・保護者・全校児童・地域・教育指導課・各種専門家	500人	研究報告会
3 月 1 8 日	教職員・講師	20人	研究会「子供が主体的に考える、危険回避能力」

○授業の様子 (2014 年～2015 年)



安全な場所と危険な場所を理解して、生活に生かそうとしました。



交通安全のために、自分たちができることを考えました。



けが予防の観点を知り、予防方法を考え、実践しようと思いました。



町会の方と話し合い、防災マップを一緒に作りました。

(4) 安全教育カリキュラムの作成

各教科・領域の中で、効果的な安全のための授業が組織的、計画的に行われています。

各教科・領域における安全教育計画

学年	生活安全	交通安全	防災教育
1	『気をつけようかいをやっつけよう』 学級活動 身近な危険を探し、予防法を考える	『みんなとさんぽはるからなつへ』 生活科 校外学習での交通安全	『「グラッ」そのときどうする』 学級活動 地震の際の一次避難
2	『おしえてあげよう気をつけようかい学校たんけん』 生活科 校内の注意喚起を含めた学校探検	『ふしぎたんけんふれあいたんけん』 生活科 校外学習での交通安全	『さいがいに そなえよう』 学級活動 家庭での災害の備え
3	『地域安全マッププロジェクト』 総合的学習の時間 地域安全マップ作り	『わたしたちのすむまち』 社会科 町の安全のための施設	『風水害の時の危険』 学級活動 台風などの危険
4	『インターネットと上手につきあおう』 学級活動 インターネットに潜む危険	『安全なくらし』 社会科 人々の交通安全の努力	『自然を生かした人々のくらし』 社会科 いろいろな災害
5	『情報モラル』 学級活動 エネチケットに	『踏切事故と安全施設』 学級活動 踏切の安全	『わたしたちのくらしと環境』 社会科 災害対策
6	『わたし・みんなの人権』 社会科 人権尊重	『自転車事故の責任』 学級活動 事故で加害者となる危険	『防災プロジェクト』 総合的学習の時間 地域の防災対策

(5) 教員用安全指導冊子

2014 年の授業中にけがが 189 件発生しています。

このことに着目して事故を検証し、教科ごとの授業時の留意点や用具、道具を使用する際の留意点等について教員用安全指導冊子を作成しました。

表 5-5 授業中の事故（2013・2014 年度保健室データより）

科目	件数（2013 年度）	件数（2014 年度）	けがの種別
体育	9 5	7 5	1 位…擦過傷・挫傷（30 件） 2 位…打撲（18 件） 3 位…捻挫・つき指（15 件）
その他の授業	9 4	4 4	切傷・刺傷・やけどなど



～教員用安全指導冊子の内容例（体育）～

授業前の準備

- 用具の破損箇所がないかを確認する。
- 適切な個数かを確認する。
- 安全に運動できる環境かを確認する。
 - ・砂場をほぐす。（走り幅跳び）・ガラスなどの危険物はないか。

(6) いじめ実態調査（「生活をふりかえってみよう」アンケート・「ハイパーＱＵ」）に基づく対応

毎学期（６月・１１月・２月）全校児童の児童を対象に、いじめの被害の有無について調査をしています。

生活指導主任が集計し、いじめがあった場合は、学級担任が事実関係を当該児童から聞き取り、確認し、即時に指導とサポートを行います。その過程で深刻ないじめと兆候がある場合は、校長を含めた「いじめ対策委員会」を即時開催し、組織的な対応を行います。

また、スクールカウンセラーが毎年５・６年児童の全員面接を行い、聞き取りによって実態を把握しています。アンケートと同様に、少しでも心配がある場合にいじめ対策委員会を即時開催します。

ハイパーＱＵ（前掲）についても結果を分析し予防対象児童を明らかにして、いじめ対策委員会の開催をしています。

毎学期ごとに集計・対応したデータを、東京都並びに豊島区教育委員会に報告します。



(7) 保健室における心理面からのサポート

保健室に頻繁に来室する児童については、じっくりと話を聞き、児童が安心して話せる雰囲気を作っています。また、養護教諭は児童の内面の理解に努め、状況を把握し、管理職や担任、カウンセラー、生活指導主任、保護者等で連携を図り、心理面からもサポートをしています。必要に応じて関係諸機関にも連携をとっています。

具体的なサポートについては、①傾聴 ②生活リズムが不安定な児童への家庭訪問

③朝の状況を把握するための電話 ④給食を共に食べる

⑤読書の支援 ⑥共に作業をする ⑦学習の支援

⑧基本的な生活習慣の重要性を伝える

などの支援を実際に行っています。



(8) 異年齢集団活動・ビオトープでの活動・動植物ふれあい体験活動

◎異年齢集団活動

全校児童（１～６年生）による異年齢集団を２０グループ作り、毎月１回遊びの活動時間を設定しています。班長を中心に、６年生全員で下学年も楽しめる遊びなどを工夫し、計画的に実施します。また同じ日に、たてわり班給食も実施し、グループごとに各教室に集まり、一緒に給食を食べます。

なかよし班活動

- ・児童の発案による遊び
- ・全校遠足
- ・会食

異年齢児童との
楽しい交流の時間

良好な関係づくり
の経験

６年生が企画運営し、グループの児童全員と良好な関係をつくろうとすることで、下級生を思いやる心や親切にする心を育むことをねらいとしています。

◎ビオトープでの活動

エコ委員会を中心に、毎月ビオトープ観察会を実施しています。子供たちは、観察を通して動植物の魅力や、四季による自然の変化を感じています。観察によって心の安らぎを感じたり、興味関心が高まったりすることを期待しています。



◎動植物ふれあい体験活動

飼育委員会を中心に、毎学期に１回程度うさぎに触れる「ゆきとふれあう会」を実施しています。小さなうさぎとのふれ合いを通して、命の尊さを実感するとともに、アニマルセラピー効果を期待しています。

※アニマルセラピーとは、動物とのふれ合いで、ストレスの軽減や心を落ち着けることができる、動物を通した心の癒やしのことです。（内閣府認証 NPO 法人 日本アニマルセラピー協会より）



(9) 学校、保護者、地域の協力による交通安全教室

全校児童の約90%が専用の自転車を所有しています。低学年児童も、同様に約90%が所有している実態があります。交通安全教室で自転車の実技をします。特に一人で自転車に乗れるようになる3年生には、自転車免許証を発行し、自転車に乗る責任感を高めます。平成27年度には、保護者・地域の方と共に「三世代交通安全教室」と称して、全校児童対象の交通安全教室を開催しました。



警察と連携した取り組み宣言



佐川急便によるトラック巻き込み実験



警察・地域の方・保護者が設置したコースでの個別指導



歩行シミュレーターを使った歩行訓練

6年間活用する「自転車運転免許証」

自転車安全教室を受講した児童には、自転車運転免許証を発行します。この免許証は、地域の交通安全協会の方が作成してくれています。

氏名	小宮 孝氏		
学校名	警視庁目白警察署		
交付	平成22年05月14日	学年	7年生
有効期限小学校卒業まで			
免許の条件	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> 1 交通ルールを守ります 2 交差点では必ず止まって安全を確認します </div> <div style="flex: 0.5; text-align: center;"> 種 類 自転車 </div> <div style="flex: 1; text-align: center;"> 講習修了証 </div> </div>		
番号	第201005120001号		
発行	目白警察署・目白交通安全協会		

(10) 学校・保護者・地域の協力による安全デー

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、首都直下型地震の発生の危険性について様々な予測がされるようになりました。本校も避難訓練や防災学習についての学習計画を見直し始めました。さらに、防災は学校だけの課題でなく、近隣地域・消防・警察等の連携も必要になります。

そのため本校では、年に一度「安全デー」を開催し、災害対策について体験的に学ぶ機会を設けています。



家具転倒の危険について学ぶ
(東京消防庁、池袋防災館)



被災時におけるお米の炊き出し体験
(日本赤十字社)



被災地生活と簡易トイレ組み立て体験
(豊島区防災課訓練グループ)



救急救命法
(池袋消防署長崎出張所)

指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

1 校内におけるけがの記録

保健室のデータや「生活をふりかえてみよう」アンケートは、生活指導部で収集・分析しています。

1	校内におけるけがの記録	軽微なものを含むけが (保健室データ)	保健室において、「けがのきろく」記録用紙を使い、けがや事故の情報収集をし、木曜の生活夕会(16:15～16:45)で全教員に報告。	毎月分析
		通院を要するけが (災害共済給付データ)	学校管理下における児童の災害医療費請求のため、日本スポーツ振興センターへ提出する記録を区に提出しています。	毎月分析
2	いじめ実態調査 (生活をふりかえてみようアンケート)	いじめの発生件数	全校児童を対象に、児童自身がいじめと感ずることや友だちがいじめの被害にあっていないか調べています。	毎学期分析

(1) 軽微なものを含むけが(保健室データ)の収集

「けがのきろく」シートを使って「いつ」「どこで」「どこを」「どうして」「けがの種類」「手当て」の項目に加え、「なにをされていて」「どうしたらそのけがをしなかったか」を個別に記録します。

けがの状況を記録するとともに、けがの予防についても考えさせます。

(No.) **けがのきろく**

月 日 () ほけん室にきた時間 :

年 組 名まえ

*あてはまるものに○をつきましょう。() があるところは書きましょう。

1. いつ

①あさ ②中休み
 ③() 時間目の()
 ④5分休み ⑤昼休み
 ⑥きゅう食 ⑦そうじ
 ⑧かえり
 ⑨そのほか()

2. どこで

①校でい ②きょうしつ
 ③たいいくかん ④ろうか
 ⑤かいだん ⑥トイレ
 ⑦しょうこうぐち
 ⑧そのほか()

3. なにをされていて

4. どこを(右・左)

①頭
 ②かお()
 ③うで ④ひじ
 ⑤手 ⑥ゆび()
 ⑦もも ⑧ひざ ⑨すね
 ⑩足()
 ⑪そのほか()

5. どのようにけがをした

①ころんだ
 ②() にぶつけた
 ③() できった
 ④そのほか()

6. どうしたらそのけがをしなかったか、かんがえてかきましょう

7. けがのしゅるい

①すりきず・ざししょう ②だぼく
 ③きりきず・さしきず ④いたみ
 ⑤ねんざ・つきゆび
 ⑥やけど ⑦目のけが ⑧歯のけが
 ⑨はなち ⑩ひふ()
 ⑪そのほか()

8. てあて

①しょうどく ②ばんそうこう
 ③ひやす ④しつぷ
 ⑤ぬりぐすり()
 ⑥そのほか()

*書けたらひやりマップにシールをはりましょう。

保健室利用の流れ

保健室に来て処置を受ける。
手当を受けた後に

↓

「けがのきろく」シートに
原因を考え記入する。

↓

6 どうしたらけがをしなかったか考えて書きましょう。

↓

★「ひやりマップ」に
シールを貼る

↓

「けがのきろく」シートを
担任が確認する

↓

養護教諭に戻る

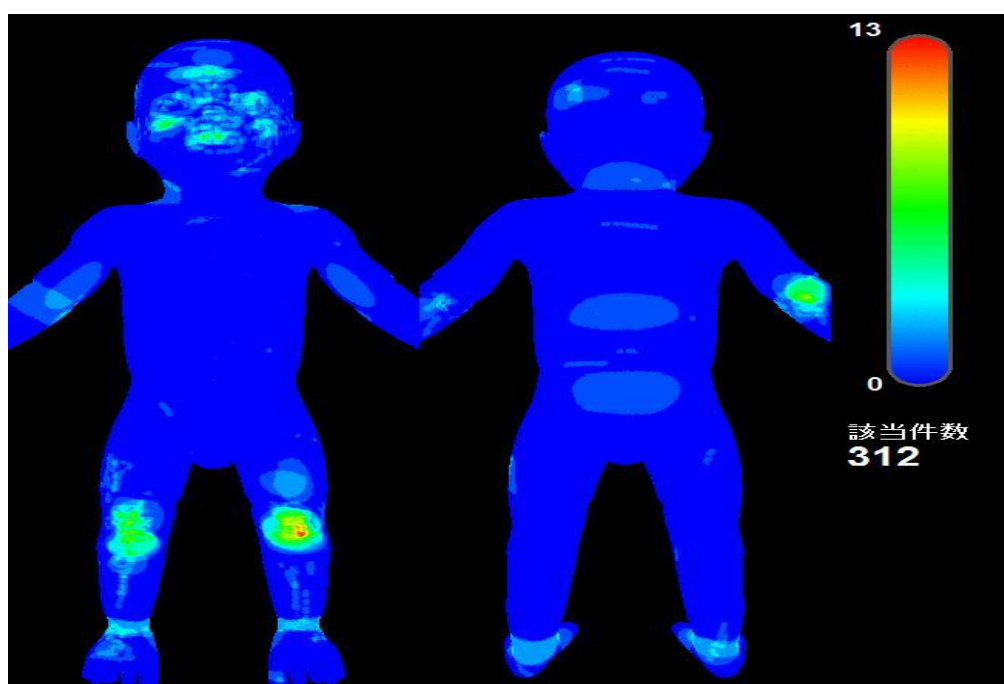
54

表 6-1 週ごとのけがの発生記録

2015年 5/11～5/15					総数	5件	累計	31件
No.	月 日	学年男女	種類	時間	場所		原因	
1	5月11日	6年男	切り傷	家庭科授業中	家庭科室		裁ちばさみで切った	
2	5月12日	1年女	擦過傷・挫傷	中休み	校庭		遊んでいて転倒した	
3	5月13日	2年女	刺し傷	中休み	校庭		縄跳び補助板を触って	
4	5月14日	5年女	擦過傷・挫傷	外国語授業中	教室		床に跪いて移動して	
5	5月15日	1年男	切り傷	生活科授業中	教室		紙で切った	

図 3-11 部位別 発生 状況 (2014 年度)

提供 産業技術総合研究所 西田佳史 氏



(2) 通院を要するけがの記録収集 (「災害共済給付データ」より)

学校管理下のけがや事故で、病院にかかったけがについて記録します。

表 6-2 外傷サーベイランス記録抜粋 (2014)

	被災者	時間	場所	場合	恣意性	他者関与	受傷機転	傷病名	受診結果
1	1年男	-	校庭	中休み	無	単独	転倒	骨折・指	通院
2	2年男	-	校庭	昼休み	無	他児童	転倒	骨折・足指	通院
3	6年男	-	校庭	中休み	無	単独	転倒	骨折・前腕	通院
4	2年男	-	教室	授業中	無	単独	ぶつけた	打撲・目	治療完了
5	5年女	-	体育館	体育授業	無	単独	転倒	骨折・肘	通院

表 6-3 通院を要するけがの記録様式

記録項目	①受傷者の属性（性別・学年・年齢）	②いつ	③どこで
	④何をしているとき	⑤恣意性	⑥他者関与
	⑧傷病名	⑨傷病部位	⑩受診結果

「学校管理下における外傷サーベイランス（小中高用）」

<表面>

被災者	①性別 1 男 2 女 ②学年 年 ③年齢 歳（生年月日 平成 年 月 日）
時間	①平成 年 月 日 ② 曜日 ③午前・午後 時 分
場所	学校内 校舎内：1 教室 2 実験実習室 3 体育館・屋内運動場 4 講堂 5 廊下 6 昇降口 7 階段 8 その他 校舎外：9 運動場 10 体育・遊戯施設 11 プール 12 排水溝 13 その他 学校外 14 道路 15 運動場 16 山 17 林野 18 海 19 湖 20 河川 21 その他
場合	<u>教育課程に基づく授業を受けている場合</u> 各教科（科目）、道徳、自立活動、総合的な学習の時間：1 体育（保健体育） 2 その他の教科等 特別活動：3 学級（ホームルーム）活動 4 児童会活動 5 クラブ活動 6 儀式的行事 7 学芸的行事 8 健康安全・体育的行事 9 遠足（旅行）・集団宿泊的行事 10 勤労生産・奉仕的行事 11 その他 <u>学校の教育計画に基づいて行われる課外指導を受けている場合</u> 12 部活動 13 林間学校 14 臨海学校 15 水泳指導 16 生徒指導 17 進路指導 18 その他 19 休憩時間中 20 昼食時休憩時間中 21 始業前の特定時間中 22 授業終了後の特定時間中 23 その他 <u>通常の経路方法により通学する場合及びこれに準ずる場合</u> 24 登校中 25 下校中 26 その他 （登校手段：1 徒歩 2 バス 3 鉄道 4 自転車 5 原動機付自転車 6 自動二輪車 7 その他 ）
恣意性	1 不慮の事故 2 自傷 3 暴力・けんか 4 その他（ ） 5 不明
他者関与	1 単独の事故 2 他の児童・生徒が関与 3 教職員が関与 4 その他（ ） 5 不明
受傷機転	1 交通事故 相手：1 自動車 2 自動二輪車 3 自転車 4 歩行者 5 その他 本人：1 自動車 2 自動二輪車 3 自転車 4 歩行者 5 その他 2 衝突 相手：1 人 2 モノ / 自分から衝突 1 はい 2 いいえ 3 圧迫（はさまれた。踏まれた） 何に：1 人 2 モノ 4 転倒（ころんだ、つまづいた） 5 転落 高さ： m から/どこから 6 ひっかいた・ひっかかれた 7 切れた・裂けた 何で 8 刺した・刺された 何で 9 かんだ・かまれた 10 やけど 何で 11 おぼれた・おぼれかけた 12 中毒 何で 13 その他 14 不明

<裏面>

傷病名	該当部位
1 骨折	
2 捻挫	
3 脱臼	
4 挫傷・打撲	
5 靱帯損傷・断裂	
6 挫創	
7 切創	
8 刺創	
9 割創	
10 裂創	
11 擦過傷	
12 熱傷・火傷	
13 歯牙破折	
14 中毒	
15 溺水	
16 誤飲	
17 その他	

部位や
該当番号
を記入

傷病部位		
全身	体幹	四肢
0 部位	7 胸部（胸郭）	<u>上肢</u>
	8 腹部	11 肩・上腕
頭部・頸部	9 骨盤・尿生殖器	12 肘・前腕
1 脳損傷	10 背部・臀部	13 手首・手・指
<u>脳損傷以外</u>		<u>下肢</u>
2 頭部		14 股関節
3 顔面		15 大腿
4 眼		16 膝
5 歯		17 下腿・足関節
6 頸部		18 足・足指
その他 ()		

受診結果	1 治療不要 2 即日治療完了 3 要通院 4 要入院 5 その他 ()
------	---

3 いじめの実態把握

(1) 全校児童へのアンケート（「毎日の生活をふりかえってみよう」）

時期：6，11，2月の年に3回

対象：全校児童

方法・ねらい：生活リズムや友達関係などを把握するアンケートを行う。（下記参照。）また、その後指導・支援が必要だと思われる児童については個人面談を行い、いじめの未然防止、早期発見へとつなげている。

東京都教育委員会の設定している「ふれあい月間」と合わせて行い、結果からいじめと疑われるものについて報告をしている。

毎日の生活をふりかえってみよう(5・6年生)			
年 組			
学校の生活		23. 朝ご飯を 食べて学校にきている。 [◎ ○ △ ×]	
1. 学校生活は楽しいと思う。	[◎ ○ △ ×]	24. 携帯電話を持っていますか？ もっている。 もっていない。	
2. 毎日 おくれずに 登校している。	[◎ ○ △ ×]	25. 携帯電話でのメールやサイトなどでいやな思いをしたことがあったら、書きましょう。	
3. きちんと あいさつが できる。	[◎ ○ △ ×]	<div></div>	
4. わずれものを していない。	[◎ ○ △ ×]	○ よく遊ぶ 友だちは だれですか？	
5. 宿題を きちんとやって もってくる。	[◎ ○ △ ×]	<div>学校で…</div>	
6. 字を ていねいに 書いている。	[◎ ○ △ ×]	<div>放課後に…</div>	
7. 休み時間は 校庭に出て 遊んでいる。	[◎ ○ △ ×]	○ 一番仲のよい 友だちは だれですか？	
8. 友達に やさしくしている。	[◎ ○ △ ×]	<div></div>	
9. そうじを きちんとやっている。	[◎ ○ △ ×]	○ 友だちのことで こまっていることは ありますか？	
10. 机の中やロッカーをせいとんしている。	[◎ ○ △ ×]	<div></div>	
11. 通学路を 通って 下校している。	[◎ ○ △ ×]	○ クラスで 一人ぼっちの 友だちや いじめられている 友だちがいますか？	
12. 学習に 必要でないものを持ってきていない。 [◎ ○ △ ×]		<div>※いたら、どんないじめを受けているか書いてください。</div>	
※カード、遊べるけしゴム、お金、マスコットとしてのキーホルダーなど		○ 自分のことで こまっていることは ありますか？(悪口、無視、仲間はずれなど)	
放課後の生活		<div></div>	
13. 放課後友達と遊ぶことが多い。	[◎ ○ △ ×]		
14. お金を持って、遊びにいかない。	[◎ ○ △ ×]		
15. 買い食いをしていない。	[◎ ○ △ ×]		
16. おごったり、おごられたりしていない。	[◎ ○ △ ×]		
17. お家の人がいない家で、遊んでいない。	[◎ ○ △ ×]		
18. 子供だけで、ゲームセンターやスーパーや映画館、池袋のはなか街には、行っていない。 [◎ ○ △ ×]			
18. 夕焼けチャイムを守っている。	[◎ ○ △ ×]		
家での生活			
19. 鉛筆を 毎日 けずっている。	[◎ ○ △ ×]		
20. 時間割を そろえている。	[◎ ○ △ ×]		
21. 長い時間 ゲームをしていない。	[◎ ○ △ ×]		
22. 早ね 早おきをしている。	[◎ ○ △ ×]		
※だいたい 時にねて、 時におきる。			

(2) スクールカウンセラーによる個人面談

時期：5，6月

対象：5，6年生全児童

方法・ねらい：事前にアンケートを行い、児童一人一人の学級内での人間関係をおおまかに把握し、それをもとに、生活・学校・コミュニケーションなどについてスクールカウンセラーが1人5分程度の個人面談を行う。スクールカウンセラーと話やすい環境づくりのスタートやいじめの未然防止、早期発見のてがかりとしている。

(3) 5. 6年生全児童へのアンケート（「ハイパーＱＵ」）

時期：6月

対象：5，6年生全児童

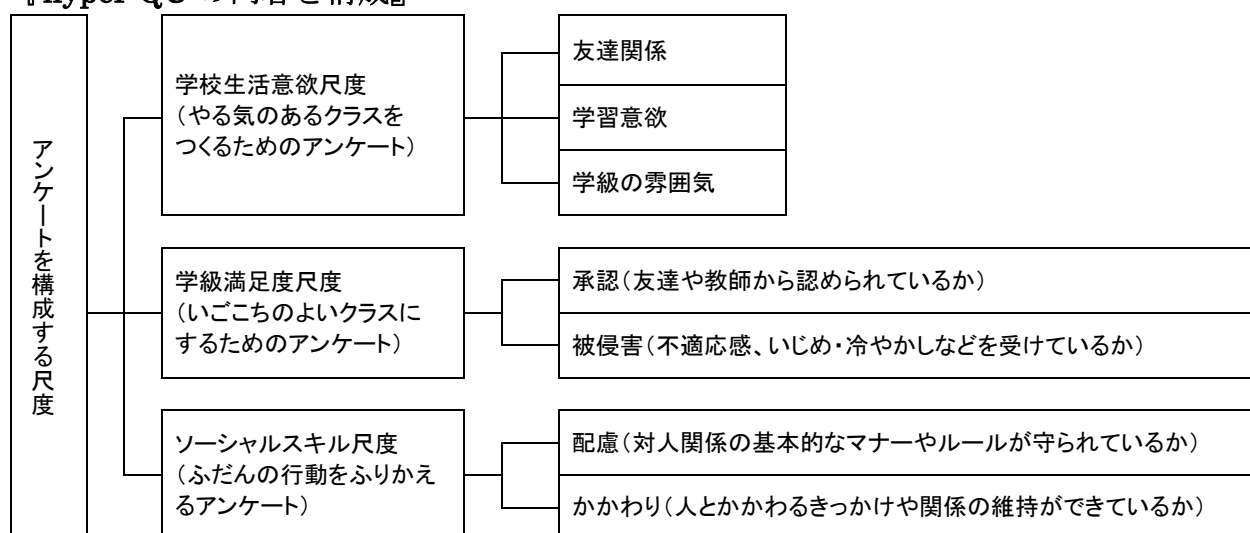
方法・ねらい：外部機関との連携によって、多面的に児童の心情を把握する。学級・学習・友達への満足度を数値化し、「いじめ」や「不登校」の可能性や早期発見へと活用する。

「ハイパーＱＵ」

学校生活における児童個々の意欲や満足感、および、学級集団の状態を質問紙によって測定するものです。「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」と「ふだんの行動をふりかえるアンケート」の3つで構成されています。（20分程度）

アンケートの結果をコンピュータで分析し、学級と児童個々へのフィードバックを行い、学習指導・生活指導に生かし、「いじめ」や「不登校」の早期発見、学級崩壊の予防、またよりよい学級集団づくりにつなげることができます。

『hyper-QU の内容と構成』



本校では、アンケート結果から児童を4つのカテゴリー（下記参照）に分類された帳票をもとに、即時支援の必要な児童、配慮すべき児童を捉え、児童と教員とのかかわりを見直しています。

<div>侵害行為認知群</div> <div>12人</div> <div>二次支援</div>	<div>満足群</div> <div>40人</div> <div>一次支援</div>	27年度アンケート結果
<div>不満足群</div> <div>11人</div> <div>要支援群</div> <div>1人</div> <div>三次支援 (即時支援)</div>	<div>非承認群</div> <div>16人</div> <div>二次支援</div>	

「ハイパーＱＵ」４つのカテゴリーの説明

○満足群	学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童。
○非承認群	「いじめ」や「悪ふざけ」を受けてはいないが、学級内で認められることが少ない。または、自主的に活動する気持ちが弱い児童と考えられる。
○侵害行為認知群	「いじめ」や「悪ふざけ」を受けているか、他の児童とトラブルがある可能性が高い。または、物事に対して過敏な反応を示す児童と考えられる。
○不満足群	耐えられない「いじめ」や「悪ふざけ」を受けているか、非常に不安傾向が強い。学級集団への適応感は低く、不登校にいたる可能性が高い児童。
(要支援群)	さらに、上記の傾向が強い児童

その他、アンケートの共通項目に関連して「孤立感」「侵害間」「意欲承認低」も個々に表記され、児童理解の助けとなっています。

一次支援・・・現在担任が行っている全体指導を中心に支援していく。

二次支援・・・全体指導とともに、個別に声をかけたり、日頃の生活の様子を観察したりし、個に合わせた支援を取り組んでいく。(予防的支援・指導)

三次支援・・・学校組織で児童の情報を共有し、多面的に個別支援をしていく。

また、外部機関とのつながりを考慮に入れた支援を行っていく。(即時的支援・指導)

アンケートの具体例

「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」

- ・クラスの人とは声をかけたり、親切にしたりしてくれる。
- ・勉強でできなかったことができるとうれしい。
- ・クラスはみんな協力しあっていると思う。

「いごちのよいクラスにするためのアンケート」

- ・クラスの人から認められることがある。
- ・気持ちをわかってくれる人がいる
- ・つらい思い(言葉・暴力)をしている
- ・グループに入れなくて残ってしまう。

「ふだんの行動をふりかえるアンケート」

- ・友達の気持ちを考えながら話をしている。
- ・班活動で友達が失敗した時は許している。
- ・みんなのためになることを見つけて実行している。
- ・他の人に左右されず、自分の考えで行動している。

指標 7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある

1 学校政策と効果の検証方法

【短・中期】

	学校政策・プログラム	検証方法 ①確認手段（時期）／②確認の対象	評価者
1	通院を要するけが、 教室内・校庭のけがの防止	①保健室のけがデータ（毎日）②全児童 ①休み時間の校庭巡回（毎日）②全児童 ①アンケート調査（毎年4月）②全児童	○全教員・全児童
2	予防への意識・行動の変化	①児童による校内巡視（毎日）②全児童 ①学校保健委員会（毎年2回）②全児童 ①アンケート調査（毎年4月）②全児童	○児童会 ○医師・薬剤師 ○全教員・全児童
3	安全に関する意識と定着	①学校評価（毎年2回）②全教員・児童 ①アンケート調査（安全学習前後）②児童 ①アンケート調査（毎年4月）②全児童	○保護者・地域 ○授業者・児童 ○全教員・全児童
4	心のけがを防止	①ハイパーQ U（毎年2回）②5.6年児童 ①いじめ実態調査（每学期）②全児童 ①全員面接（毎年1回）②5.6年児童	○全教員・5.6年児童 ○全教員・全児童 ○スクールカウンセラー
5	交通事故によるけがの防止	①アンケート調査（毎年4月）②全児童 ①ヒヤリハット調査（毎年4月） ②全児童・保護者	○全教員・全児童 ○全教員・全児童・保護者
6	交通ルールの定着度	①アンケート調査（毎年4月）②全児童 ①交通案全教室（毎年1回）②全児童	○全教員・全児童 ○警察署
7	地域・通学路の交通安全	①アンケート調査（毎年4月）②全児童 ①三世代交通案全教室（毎年1回） ②全児童・保護者・地域の方	○全教員・全児童 ○警察署
8	被災時のけがを防止	①避難訓練（毎月1回）②全教員・全児童 ①救急救命法講習（毎年1回） ②全教員・5.6年児童	○全教員 ○消防署
9	不審者被害を防止	①セーフティ教室（毎年1回） ②全教員・全児童・保護者	○警察署
10	校内研究	①研究授業（年4回）②教員・児童	○講師 ○全教員

【長期】

11	校内のけがの発生数・率	①保健室データ ②全児童 ①災害共済給付データ ②全児童	○全教員
12	自転車による交通事故の 発生数・率	①事故報告書 ②全児童	○全教員

2 評価方法と改善 それぞれの指標ごとに、成果を評価・分析するとともに、改善につなげます。

【短・中期】

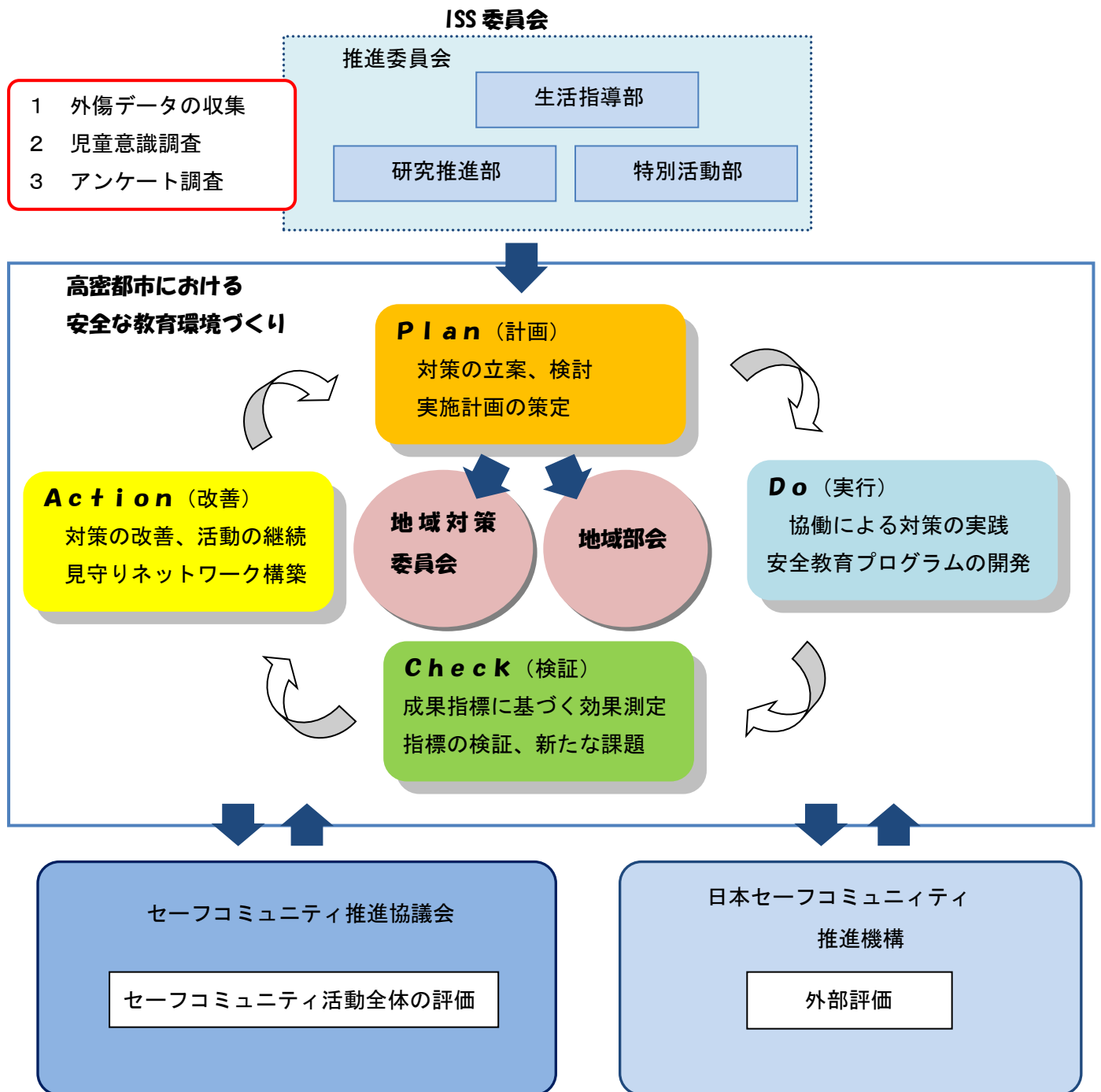
	評価方法	改 善
1	○けがのデータをマップ上に表し、学年ごとに頻度が高い場所や発生件数の増減を明らかにします。 ○毎日複数教員で休み時間の校庭を巡回し、児童の遊び方の変容を把握し、評価しています。 ○アンケート結果から、児童の変容を調査し評価を行います。	学年ごとのけがの発生と要因の理解を図り、安全指導計画の改善を行います。
2	○担当児童が、休み時間に児童の廊下での歩行を見守り、ルールを守らない児童に注意しています。 ○アンケート結果から、児童の変容を調査し評価を行います。 ○全校児童の体力測定数値から、児童の体力・行動の特徴を分析し、医師・薬剤師が評価します。	見守り、調査を継続することによって、児童の意識と行動の変容をとらえ、児童会活動と安全指導につなげます。
3	○学習前後と1年ごとに、児童の安全に対する意識を調査し、変容と定着率を評価します。	意識の変容を受けて、全教科の安全指導カリキュラムの改善を行います。
4	○年2回のハイパーQ Uと学期ごとのいじめ実態調査により、いじめの発生件数や実態、個人・集団の変容をとらえ評価します。 ○スクールカウンセラーが、5.6年全児童と面接し、人間関係を把握し評価します。	いじめの原因分析と継続的な指導を行います。いじめ解消に向けて、実態に応じて教職員が組織的に対応します。
5	○アンケート結果から、児童の変容を調査し評価を行います。 ○学区域でのヒヤリハット体験を調査・分析し、地域の危険度の高い場所を明らかにします。	意識の変容、危険度の高い場所の把握を受けて、安全指導カリキュラムの作成・改善を行います。
6 ・ 7	○学習前後と1年ごとに、児童の交通安全に対する意識を調査し、変容と定着率を評価します。 ○警察署とPTAによる三世代に応じた交通安全教室を行い、通学路の歩き方、自転車の乗り方を警察署の方が評価します。	交通安全の指導内容・方法の改善を行うとともに、学習終了時に自転車免許証を授与し、一層の定着を図ります。
8	○毎月、地震・台風・火災時の避難訓練を計画的に行い、年に2回、消防署の方が評価します。 ○毎年、5.6年児童が救急救命法講習を受け、消防署の方が評価します。	災害安全の指導内容・指導方法の改善を行うとともに、学習終了時に救命技能認定証を授与し、一層の定着を図ります。
9	○警察署によるセーフティ教室を行い、インターネット被害を含めた、不審者対応について全教員と全児童と保護者が学び、警察署の方が評価します。	不審者対応の指導内容・指導方法の改善を行っています。
10	○「子供一人一人が主体的に考える、危険回避能力の育成」を研究主題として、研究授業に取り組み、講師と全教員で指導方法・指導内容を評価しています。	安全・安心に関する指導内容・指導方法の改善を行っています。

【長期】

11	○校内のけがの発生数・率・状況を、表やグラフで表し、年間を通した全体的な特徴や、経年変化を分析・評価しています。	けがのデータに基づく予防意識を高めるとともに、安全指導カリキュラムを整備し、けがの発生数・率の減少を図ります。
12	○自転車による交通事故の発生数・率・状況を分析し、日々の指導内容の分析・評価につなげています。	保護者・地域の見守りネットワークを広げ、児童の自転車による交通事故の発生数・率を減少させます。

3 プログラムの進行管理

カリキュラム部会のデータ収集、対策の立案を受け、プログラム全体の進行管理を地域対策委員会が行います。成果指標に基づいて、効果を評価し改善します。



2015年6月にアジア認証センターによる事前審査を受けました。

指標 8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している

2014. 2 台東区立金竜小学校 ISS 認証取得参観

2014. 4 豊島区立富士見台小学校 ISS 認証取得取組宣言

2014. 5 第7回アジア地域セーフコミュニティ会議
(韓国・釜山)

2014. 8 ISS 研修会 (朋有小)

2014. 10 ISS 取組テレビ全国放映 (日本テレビ)

2014. 11 北本市立中丸小学校・宮内中学校事前審査会参観

2014. 11 厚木市立清水小学校教員間交流

2014. 11 広報誌第1号発刊

2014. 12 豊島区セーフコミュニティ推進協議会報告 (豊島区役所)



2015. 3 北本市立中丸小学校現地審査会参観

2015. 4 朋有小学校教員間交流

2015. 6 ISS 事前審査会

2015. 6 朋有小学校 児童間交流 (朋有小)

2015. 7 区民ひろば富士見台にてISSソング発表

2015. 9 朋有小学校 児童間交流 (富士見台小学校)



1 中・長期目標

- (1) 予防策を積極的に進め、校内のけがの発生件数を減らします。
- (2) 児童が自ら危険予測回避する力の育成を図ります。
- (3) いじめの発生件数を減らすため、心の教育を推進します。
- (4) 交通安全意識の向上に努め、校外のけがの発生件数を減らします。
- (5) 地域・保護者が一体となって、児童見守りネットワークを広げます。

2 今後の展開

- (1) セーフスクール委員会を中心に児童主体のセーフスクールの取組を進めます。
- (2) 教員の組織力を生かし、外傷データの継続的な分析・評価を行います。
- (3) 区教育委員会の研究指定を受け「児童の危険を予測し回避する能力の育成」をテーマに研究発表を行います。
- (4) 自転車ヘルメット着用率の向上を図ります。
- (5) 地域・保護者と連携した不審者対策について検討を行います。
- (6) 国内外のネットワークへの継続的参加や ISS 認証校との交流を積極的に進めます。